

2014(平成26)年度

# FD報告書



京都ノートルダム女子大学





## はじめに

本学の FD 活動は、2008（平成 20）年度の FD・自己点検委員会において始まり、昨年度は FD・点検評価委員会のもとで行っていた。しかし、今年度から点検・評価機能を自己・点検評価委員会が担うことになったため、新たに FD 委員会として取り組むことになった。本学は、これまで FD 活動として、授業評価・教育評価アンケート（2008（平成 20）年度～）、FD 講演会・研修会（2009（平成 21）年度～）、オープンクラス（2011（平成 23）年度～）などを実施し、授業内容や方法の改善に組織的に取り組んできた。今年度もこれまでの活動を引き継ぐ形で行った。主な実施内容は以下の通りである。

1. 「学生による授業評価アンケート」は、昨年度までのものから形式や内容を変更して実施した。新たに授業形態（講義、演習、実習、卒業研究）による質問項目を設け、授業形態の違いに対応できるようにした。また、個別指導が中心のために実施が困難であった「卒業研究」については、今年度から実施方法を工夫して行った。
2. 「大学院生による教育評価アンケート」については、昨年度と同様で大きな実施上の変更点はなかった。
3. 「FD 研修会」は、昨年度と同様に複数の研修会のうち、教員の興味や時間の都合により、いずれかに参加する形で、6月に3回実施した。
4. 「オープンクラス」については、昨年度と同様で大きな実施上の変更点はなかった。
5. 「全学 FD 教員研修会」は、昨年度までは学内教員のみでディスカッションを行っていたが、今年度は外部講師を招き、プレゼンテーション技術やファシリテーション・スキルについて学んだ。

今年度の FD 活動は主に昨年度を継承する形で行い、大きな変更点はあまりなかった。それは、現在の FD 活動が十分に機能し、教員の資質を向上し、授業を改善できていると委員会で認識しているからではない。すでに委員会では来年度に向けていくつかの変更を検討しているが、その内容は本報告書には反映されていない。また、本学の FD 活動の学外への発信も十分には行われておらず、改善が必要と思われる。本報告書をご覧いただき、本学の FD 活動に関してお気づきの点があれば、忌憚のない意見を頂戴できれば幸いである。

2015（平成 27）年 3 月

京都ノートルダム女子大学  
FD 委員会 委員長 廣瀬 直哉

## 目 次

はじめに	1
I 2014（平成 26）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告	5
1. 実施目的	5
2. 実施方法	5
3. 集計結果	9
(1) 【全学部】	9
(2) 【授業形態別】	13
1) 講義	14
2) 演習	16
3) 実習	18
4) 卒業研究	20
(3) 【開講所属別】	23
1) 共通教育科目	24
2) 資格関係	26
3) 英語英文学科専門教育科目	28
4) 人間文化学科専門教育科目	30
5) 人間文化学部共通科目	32
6) 生活福祉文化学部専門教育科目	34
7) 心理学部専門教育科目	36
4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	39
資料 2014（平成 26）年度 学生による授業評価アンケート 調査票	41
II 2014（平成 26）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告	45
1. 実施目的	45
2. 実施方法	45
3. 集計結果	47
(1) 【全研究科】	47
(2) 【研究科・専攻別】	51
1) 人間文化研究科	53
2) 人間文化研究科 応用英語専攻	54
3) 人間文化研究科 人間文化専攻	55
4) 人間文化研究科 生活福祉文化専攻	56
5) 心理学研究科	57
6) 心理学研究科 発達・学校心理学専攻	58
7) 心理学研究科 臨床心理学専攻	59
4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	61
資料 2014（平成 26）年度 大学院生による教育評価アンケート 調査票	64
III 2014（平成 26）年度「FD 研修会」実施報告	65
1. 実施概要	65
2. 現状と今後の課題	66

IV	2014（平成 26）年度「オープンクラス」実施報告	68
	1. 実施概要	68
	2. 現状と今後の課題	68
V	2014（平成 26）年度「全学 FD 教員研修会」実施報告	69
	1. 実施概要	69
	2. 現状と今後の課題	69
FD	委員会構成員	71

# I 2014（平成 26）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

## 1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に全学的規模で 2008（平成 20）年度から継続的に実施している。

集計結果が出たのち、教員はそれを踏まえて自己評価をおこない、結果についての所見、改善に向けた今後の取り組みについて学生へフィードバックを行った。フィードバックの内容は、学内 Web にて公開している。

## 2. 実施方法

### 1) 実施期間

前期は、2014（平成 26）年 7 月 1 日(火)～7 月 29 日(火)、後期は、2014（平成 26）年 12 月 11 日(木)～2015（平成 27）年 1 月 19 日(月)に実施した。ただし一部の集中科目等については、実施期間外に実施した。

### 2) 調査対象科目・調査対象者

調査対象科目：2014（平成 26）年度に開講されている学部すべての授業科目を調査対象とした。

調査対象者：全学部の学生

### 3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施科目数、回収率は下のとおりである。

開講所属	開講科目数 (a)	授業評価アンケート実施数 (b)	実施率	授業評価アンケート実施科目回収状況		
				履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	231	226	97.8 %	8,724	6,756	77.4 %
資格関係	47	45	95.7 %	871	711	81.6 %
英語英文学科専門教育科目	203	192	94.6 %	4,586	3,596	78.4 %
人間文化学科専門教育科目	116	114	98.3 %	1,909	1,485	77.8 %
人間文化学部共通科目	12	11	91.7 %	102	84	82.4 %
生活福祉文化学部専門教育科目	207	198	95.7 %	4,310	3,514	81.5 %
心理学部専門教育科目	154	135	87.7 %	6,440	5,030	78.1 %
計	970	921	94.9 %	26,942	21,176	78.6 %

### 4) 調査内容（学部）

最初に、回答者の属性（学年・所属学部（学科））を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果（社会人基礎力）」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 19 問 自由記述 2 問である。

「授業形態項目」は、今年度新たに設けた調査項目であり、授業形態（講義、演習、実習、卒業研

究)によって異なる。

調査項目の一覧は以下のとおりである。

### 当該科目に関する調査項目と回答形式

#### (1) 調査項目

##### 授業の状況

- (1) 授業はシラバス (目標・内容・方法など) に沿った内容であった
- (2) 授業中に使う教材 (テキスト・配付資料など) は適切であった
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった

##### 学習の状況

- (8) 授業の内容は理解できた
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか  
[5(2 時間以上)、4(1~2 時間未満)、3(30 分~1 時間未満)、2(30 分未満)、1(0 時間)]

##### 学習成果 (社会人基礎力)

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した
- (12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した
- (13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した
- (14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した
- (15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した
- (16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した

##### 授業形態項目 (講義)

- (17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた
- (18) 黒板の字や視聴覚教材 (パワーポイントなど) は見やすかった
- (19) 授業の進むペースは適切であった

##### 授業形態項目 (演習)

- (17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった
- (18) 教員とコミュニケーションがとれた
- (19) 授業中に質問や発言を積極的にした

##### 授業形態項目 (実習)

- (17) 実習はやりがいがあった
- (18) 授業中に質問や発言を積極的にした
- (19) TA などのサポートが役に立った

##### 授業形態項目 (卒業研究)

- (17) 卒業研究の作成過程・出来栄に満足している
- (18) 指導教員から適切な指導を受けた
- (19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった

独自設定項目

(20) 担当教員が、独自に設定した項目

自由記述

- ・この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。
- ・この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。

(2) 回答形式

評価項目(1)～(20)については、以下の6件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：該当しない

## 5) 実施手順（学部）

授業評価アンケートの調査票は、学事課より実施期間前に教員へ配付した。各科目の担当教員は、学生に対しアンケートの主旨等を説明した上で調査票を配付した。回答済みの調査票は、担当教員に指名された学生の代表が回収し、学事課へ提出した。

ただし、「ノートルダム学Ⅲ」と全学部の「卒業研究」は、「ノートルダム学Ⅲ」の授業中（2014（平成26）年12月8日（月））に、学事課および研究・情報推進課の職員が学生に配付し回収した。

## 6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

## 7) 教員への結果通知と集計結果の配付

科目別集計結果については、前期実施分は2014（平成26）年9月中旬に返却し、後期実施分は、2015（平成27）年3月に返却した。



2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(全体)

京都ノートルダム女子大学

■集計区分全体

履修者数	26,942	全科目数	970
回答者数	21,176	実施科目数	921

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
8,111	38.9%	5,913	28.4%	4,449	21.3%	2,307	11.1%	20	0.1%	49	0.2%	20,849

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
5,037	24.3%	3,053	14.7%	5,217	25.1%	7,427	35.8%	17	0.1%	11	0.1%	20,762

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	10,215 48.5%	8,124 38.5%	2,312 11.0%	226 1.1%	144 0.7%	54 0.3%	21,075	103	0.768
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	10,098 48.0%	7,682 36.5%	2,399 11.4%	517 2.5%	241 1.1%	118 0.6%	21,055	123	0.848
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	9,048 43.0%	7,686 36.5%	3,258 15.5%	674 3.2%	308 1.5%	55 0.3%	21,029	149	0.905
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	9,704 46.1%	7,180 34.1%	2,764 13.1%	882 4.2%	457 2.2%	54 0.3%	21,041	137	0.962
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	9,111 43.3%	7,202 34.2%	3,265 15.5%	938 4.5%	445 2.1%	70 0.3%	21,031	147	0.972
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	8,850 42.1%	7,409 35.3%	3,139 14.9%	977 4.6%	571 2.7%	71 0.3%	21,017	161	0.997
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	11,175 53.3%	6,935 33.1%	2,054 9.8%	500 2.4%	257 1.2%	57 0.3%	20,978	200	0.846

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	8,122 38.7%	8,150 38.8%	3,319 15.8%	954 4.5%	399 1.9%	53 0.3%	20,997	181	0.945
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.3	12,248 58.5%	5,123 24.5%	2,300 11.0%	727 3.5%	435 2.1%	100 0.5%	20,933	245	0.952
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	2,029 9.7%	2,808 13.5%	4,242 20.3%	4,985 23.9%	6,210 29.8%	595 2.9%	20,869	309	1.319

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	6,303 30.0%	7,483 35.6%	5,591 26.6%	893 4.2%	482 2.3%	270 1.3%	21,022	156	0.969
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.7	5,640 26.8%	6,709 31.9%	6,393 30.4%	1,213 5.8%	677 3.2%	374 1.8%	21,006	172	1.025
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.7	5,766 27.5%	6,283 29.9%	6,410 30.5%	1,374 6.5%	776 3.7%	391 1.9%	21,000	178	1.058
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.8	5,898 28.1%	7,247 34.5%	5,958 28.4%	1,003 4.8%	579 2.8%	303 1.4%	20,988	190	0.993
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.9	6,604 31.5%	7,783 37.1%	5,143 24.5%	780 3.7%	460 2.2%	218 1.0%	20,988	190	0.954
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.7	5,562 26.5%	6,655 31.8%	6,655 31.8%	1,083 5.2%	635 3.0%	362 1.7%	20,952	226	1.009

2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態

授業形態名	履修者数	18,025	全科目数	457
	講義	回答者数	13,954	実施科目数

■学年

1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
4,664 34.0%	4,144 30.2%	3,317 24.2%	1,542 11.2%	16 0.1%	42 0.3%	13,725

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
3,090 22.6%	1,992 14.6%	3,406 24.9%	5,147 37.7%	15 0.1%	11 0.1%	13,661

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	6,502 46.8%	5,530 39.8%	1,560 11.2%	161 1.2%	102 0.7%	28 0.2%	13,883	71	0.773
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.2	6,376 46.0%	5,192 37.5%	1,678 12.1%	376 2.7%	172 1.2%	68 0.5%	13,862	92	0.862
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	5,836 42.1%	5,174 37.3%	2,144 15.5%	455 3.3%	217 1.6%	30 0.2%	13,856	98	0.909
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.1	6,114 44.1%	4,834 34.9%	1,908 13.8%	626 4.5%	347 2.5%	29 0.2%	13,858	96	0.984
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	5,580 40.3%	4,873 35.2%	2,347 16.9%	686 5.0%	326 2.4%	36 0.3%	13,848	106	0.990
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	5,666 40.9%	4,961 35.8%	2,080 15.0%	678 4.9%	415 3.0%	43 0.3%	13,843	111	1.012
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.3	7,204 52.1%	4,661 33.7%	1,406 10.2%	347 2.5%	185 1.3%	23 0.2%	13,826	128	0.858

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.0	4,994 36.1%	5,447 39.4%	2,367 17.1%	688 5.0%	309 2.2%	29 0.2%	13,834	120	0.966
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.3	7,858 57.0%	3,514 25.5%	1,574 11.4%	490 3.6%	305 2.2%	54 0.4%	13,795	159	0.963
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.3	1,122 8.2%	1,621 11.8%	2,551 18.5%	3,415 24.8%	4,632 33.7%	412 3.0%	13,753	201	1.291

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.8	3,888 28.1%	4,870 35.2%	3,861 27.9%	673 4.9%	364 2.6%	184 1.3%	13,840	114	0.987
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.7	3,389 24.5%	4,299 31.1%	4,448 32.2%	909 6.6%	513 3.7%	270 2.0%	13,828	126	1.040
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.6	3,345 24.2%	3,927 28.4%	4,595 33.2%	1,051 7.6%	606 4.4%	299 2.2%	13,823	131	1.075
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.8	3,599 26.0%	4,663 33.8%	4,132 29.9%	759 5.5%	444 3.2%	219 1.6%	13,816	138	1.012
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.9	4,057 29.4%	5,115 37.0%	3,542 25.6%	595 4.3%	354 2.6%	149 1.1%	13,812	142	0.973
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.7	3,362 24.4%	4,217 30.6%	4,631 33.6%	824 6.0%	493 3.6%	259 1.9%	13,786	168	1.028

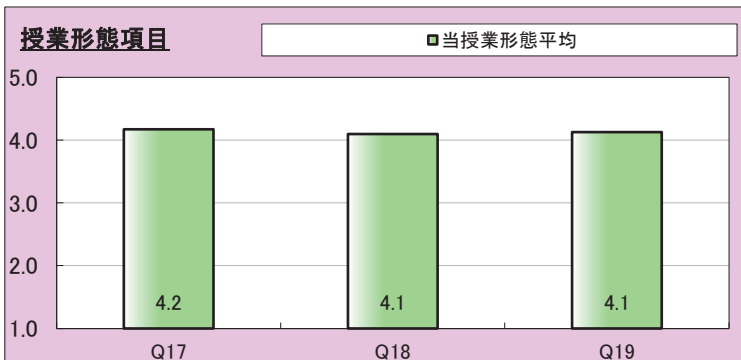
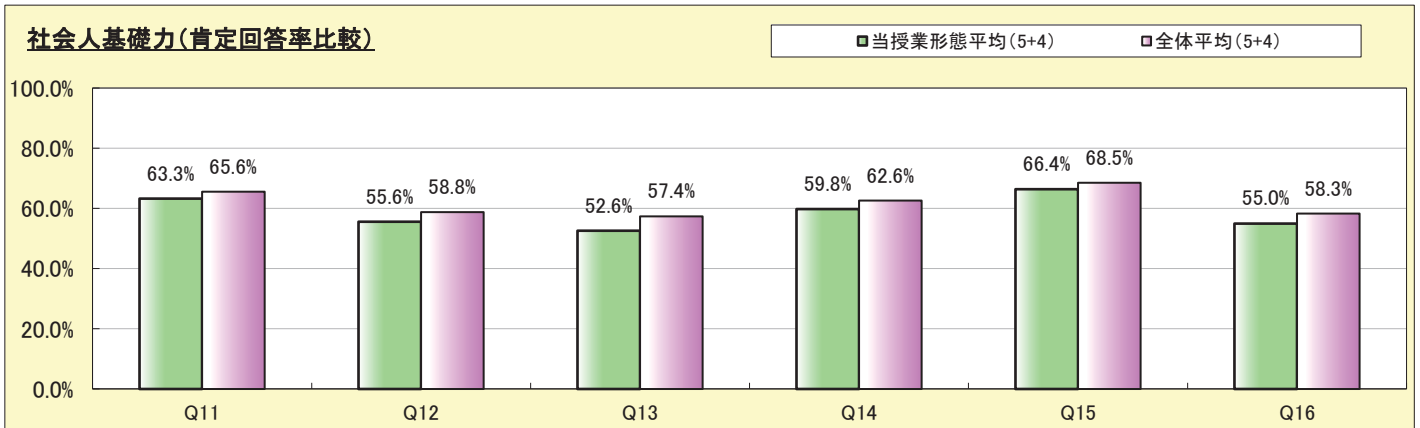
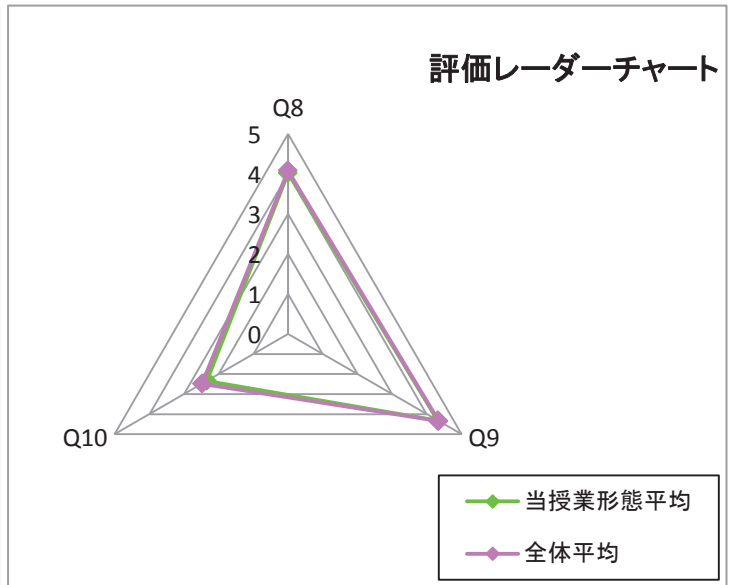
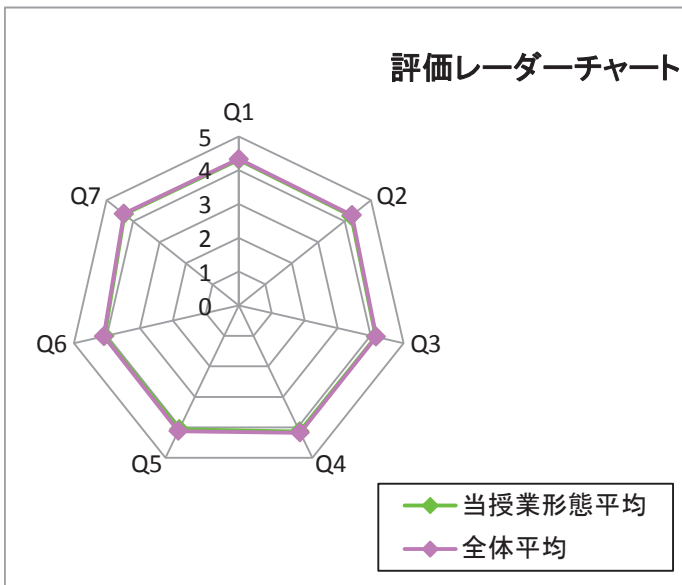
■授業形態

授業形態名
講義

履修者数	18,025	全科目数	457
回答者数	13,954	実施科目数	444

【授業形態項目 ( 講義 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q17	教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた	4.2	5,922 43.6%	4,823 35.5%	2,185 16.1%	391 2.9%	212 1.6%	52 0.4%	13,585	369	0.909
Q18	黒板の字や視聴覚教材(パワーポイントなど)は見やすかった	4.1	5,775 42.5%	4,554 33.5%	2,135 15.7%	675 5.0%	333 2.5%	107 0.8%	13,579	375	1.000
Q19	授業の進むペースは適切であった	4.1	5,733 42.4%	4,789 35.4%	2,183 16.1%	536 4.0%	257 1.9%	36 0.3%	13,534	420	0.949



2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態	授業形態名		履修者数	7,425	全科目数	439
	演習		回答者数	6,031	実施科目数	404

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	3,000 50.5%	1,484 25.0%	1,003 16.9%	447 7.5%	4 0.1%	7 0.1%	5,945

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	1,554 26.2%	996 16.8%	1,619 27.3%	1,756 29.6%	2 0.0%	0 0.0%	5,927

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	3,161 52.6%	2,141 35.6%	596 9.9%	54 0.9%	34 0.6%	20 0.3%	6,006	25	0.748
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	3,189 53.1%	2,034 33.9%	559 9.3%	128 2.1%	65 1.1%	30 0.5%	6,005	26	0.823
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	2,732 45.6%	2,078 34.7%	901 15.0%	183 3.1%	78 1.3%	17 0.3%	5,989	42	0.898
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	3,072 51.2%	1,911 31.9%	674 11.2%	228 3.8%	98 1.6%	15 0.3%	5,998	33	0.922
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	3,022 50.3%	1,907 31.8%	731 12.2%	215 3.6%	108 1.8%	19 0.3%	6,002	29	0.931
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	2,652 44.3%	2,035 34.0%	879 14.7%	265 4.4%	144 2.4%	18 0.3%	5,993	38	0.983
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	3,387 56.7%	1,873 31.3%	503 8.4%	137 2.3%	63 1.1%	12 0.2%	5,975	56	0.821

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	2,620 43.8%	2,237 37.4%	778 13.0%	239 4.0%	88 1.5%	16 0.3%	5,978	53	0.911
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	3,660 61.4%	1,340 22.5%	603 10.1%	209 3.5%	119 2.0%	32 0.5%	5,963	68	0.945
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.7	618 10.4%	953 16.0%	1,413 23.8%	1,413 23.8%	1,390 23.4%	153 2.6%	5,940	91	1.295

【学習成果 (社会人基礎力)】

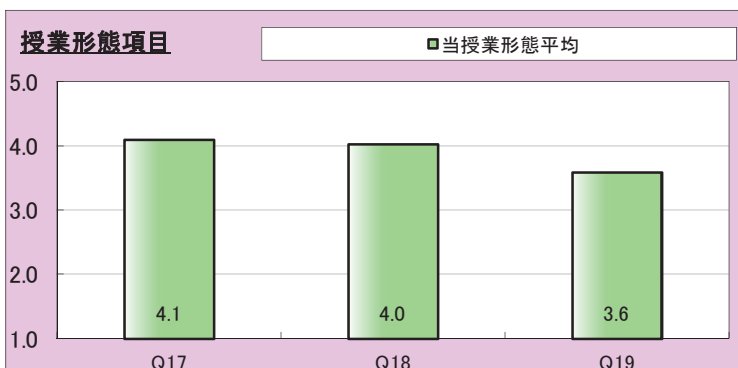
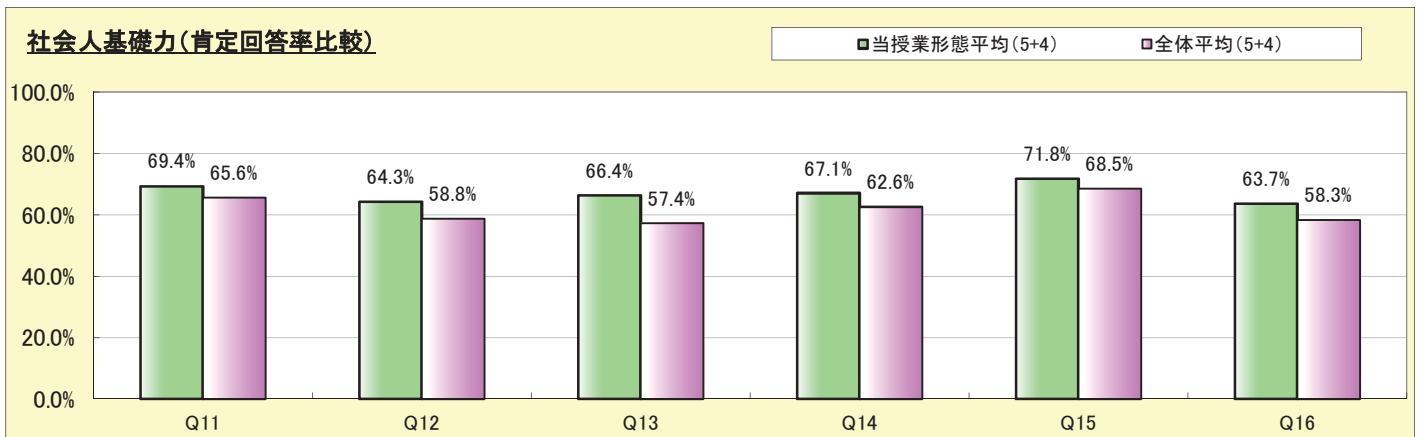
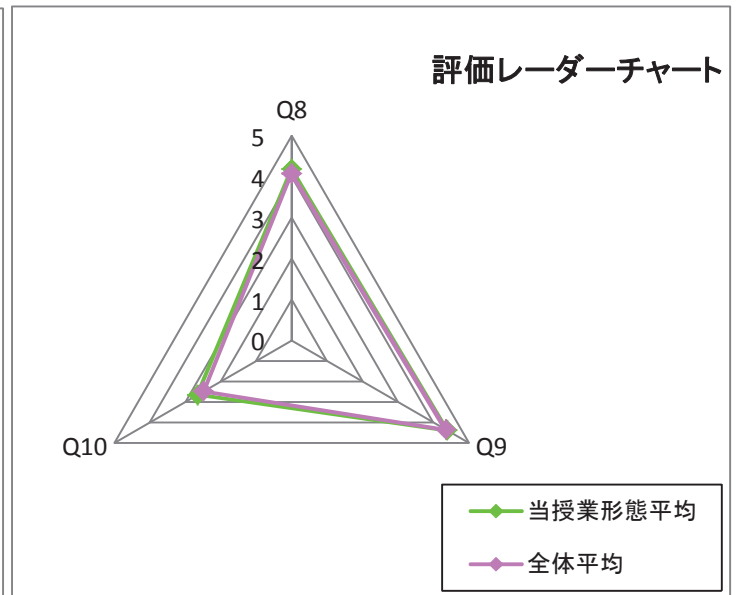
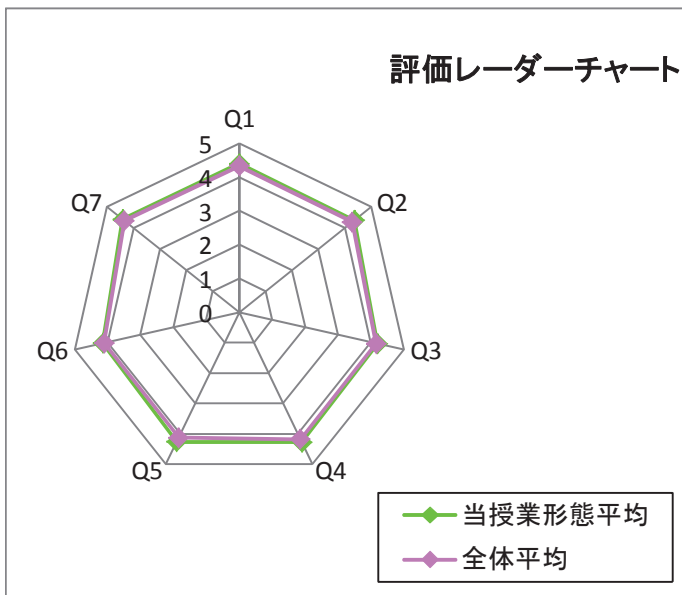
No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	1,971 32.9%	2,189 36.5%	1,462 24.4%	194 3.2%	109 1.8%	72 1.2%	5,997	34	0.935
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	1,859 31.0%	1,998 33.3%	1,640 27.4%	266 4.4%	146 2.4%	85 1.4%	5,994	37	0.989
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	2,019 33.7%	1,956 32.7%	1,503 25.1%	290 4.8%	147 2.5%	75 1.3%	5,990	41	1.004
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	1,887 31.5%	2,129 35.6%	1,560 26.1%	219 3.7%	118 2.0%	72 1.2%	5,985	46	0.951
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	2,090 34.9%	2,213 37.0%	1,364 22.8%	168 2.8%	93 1.6%	61 1.0%	5,989	42	0.915
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	1,788 29.9%	2,020 33.8%	1,728 28.9%	233 3.9%	128 2.1%	84 1.4%	5,981	50	0.965

■授業形態	授業形態名
	演習

履修者数	7,425	全科目数	439
回答者数	6,031	実施科目数	404

【授業形態項目 ( 演習 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q17	発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった	4.1	2,396	1,966	1,149	203	99	55	5,868	163	0.946
			40.8%	33.5%	19.6%	3.5%	1.7%	0.9%			
Q18	教員とコミュニケーションがとれた	4.0	2,342	1,876	1,160	269	166	57	5,870	161	1.022
			39.9%	32.0%	19.8%	4.6%	2.8%	1.0%			
Q19	授業中に質問や発言を積極的にした	3.6	1,567	1,576	1,680	535	393	108	5,859	172	1.176
			26.7%	26.9%	28.7%	9.1%	6.7%	1.8%			





2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態

授業形態名	履修者数	1,158	全科目数	25
	回答者数	923	実施科目数	24
実習				

■学年

1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
447 49.2%	285 31.4%	129 14.2%	48 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	909

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
346 38.2%	17 1.9%	122 13.5%	421 46.5%	0 0.0%	0 0.0%	906

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	469	325	112	7	5	1	919	4	0.765
			51.0%	35.4%	12.2%	0.8%	0.5%	0.1%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	441	334	119	8	4	15	921	2	0.767
			47.9%	36.3%	12.9%	0.9%	0.4%	1.6%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	400	319	162	26	7	3	917	6	0.875
			43.6%	34.8%	17.7%	2.8%	0.8%	0.3%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	411	326	143	20	10	8	918	5	0.865
			44.8%	35.5%	15.6%	2.2%	1.1%	0.9%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	400	329	143	24	8	12	916	7	0.863
			43.7%	35.9%	15.6%	2.6%	0.9%	1.3%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	433	301	136	30	10	6	916	7	0.897
			47.3%	32.9%	14.8%	3.3%	1.1%	0.7%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	474	296	104	12	7	17	910	13	0.799
			52.1%	32.5%	11.4%	1.3%	0.8%	1.9%			

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.3	416	351	127	19	2	4	919	4	0.790
			45.3%	38.2%	13.8%	2.1%	0.2%	0.4%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.5	607	181	85	20	8	9	910	13	0.824
			66.7%	19.9%	9.3%	2.2%	0.9%	1.0%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	3.0	182	163	225	139	175	26	910	13	1.398
			20.0%	17.9%	24.7%	15.3%	19.2%	2.9%			

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.1	352	304	219	22	8	13	918	5	0.896
			38.3%	33.1%	23.9%	2.4%	0.9%	1.4%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	4.0	314	300	241	29	14	18	916	7	0.942
			34.3%	32.8%	26.3%	3.2%	1.5%	2.0%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	322	277	256	30	18	16	919	4	0.974
			35.0%	30.1%	27.9%	3.3%	2.0%	1.7%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.0	330	325	221	21	12	11	920	3	0.903
			35.9%	35.3%	24.0%	2.3%	1.3%	1.2%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	359	335	196	13	9	7	919	4	0.860
			39.1%	36.5%	21.3%	1.4%	1.0%	0.8%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	4.0	318	299	250	23	9	18	917	6	0.908
			34.7%	32.6%	27.3%	2.5%	1.0%	2.0%			

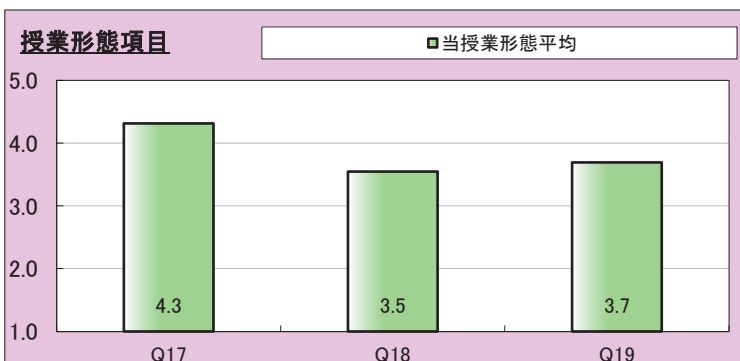
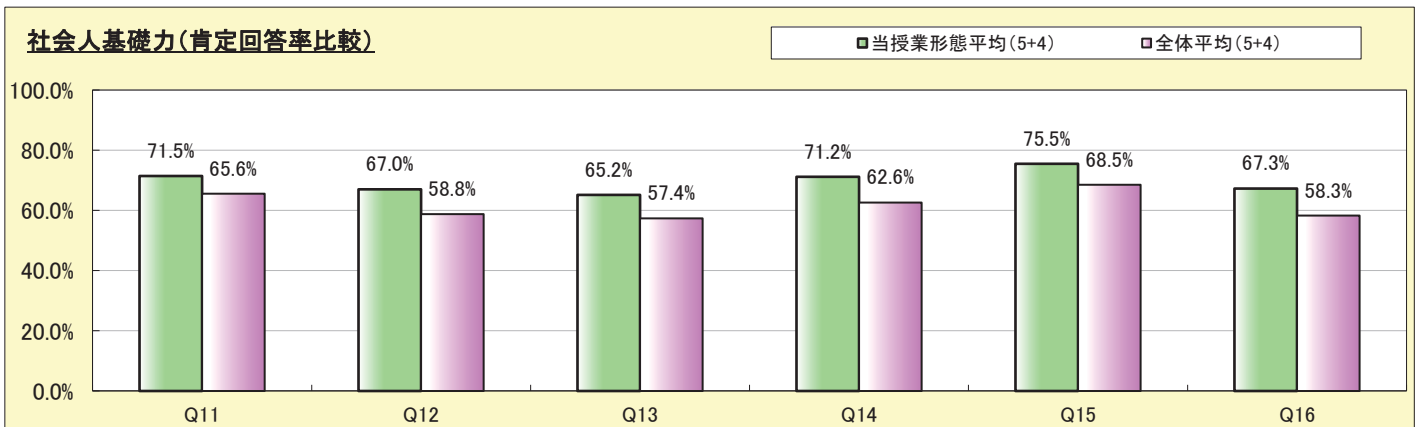
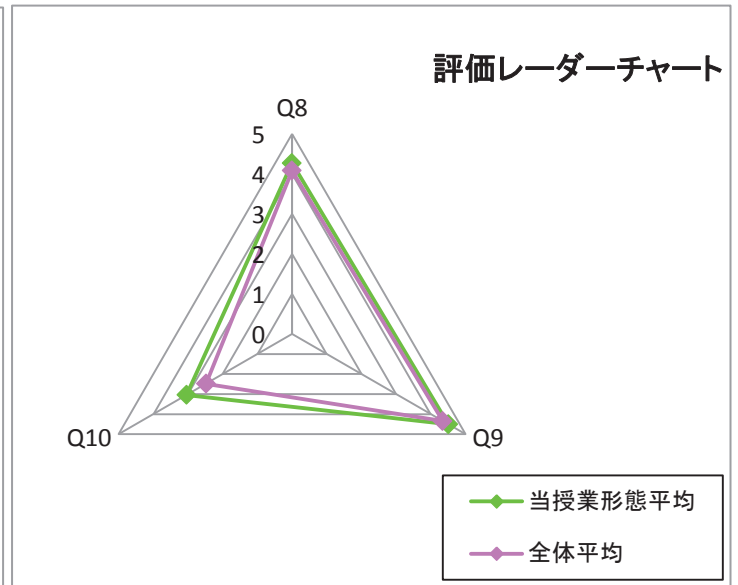
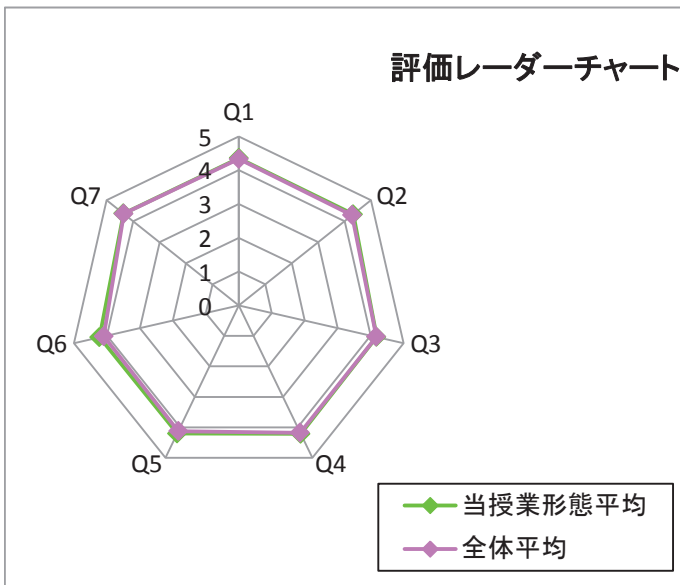
■授業形態

授業形態名
実習

履修者数	1,158	全科目数	25
回答者数	923	実施科目数	24

【授業形態項目 ( 実習 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q17	実習はやりがいがあった	4.3	454 51.6%	236 26.8%	134 15.2%	17 1.9%	7 0.8%	31 3.5%	879	44	0.866
Q18	授業中に質問や発言を積極的にした	3.5	226 25.7%	200 22.8%	270 30.8%	87 9.9%	54 6.2%	41 4.7%	878	45	1.176
Q19	TAなどのサポートが役に立った	3.7	216 25.0%	199 23.0%	254 29.4%	47 5.4%	33 3.8%	116 13.4%	865	58	1.086







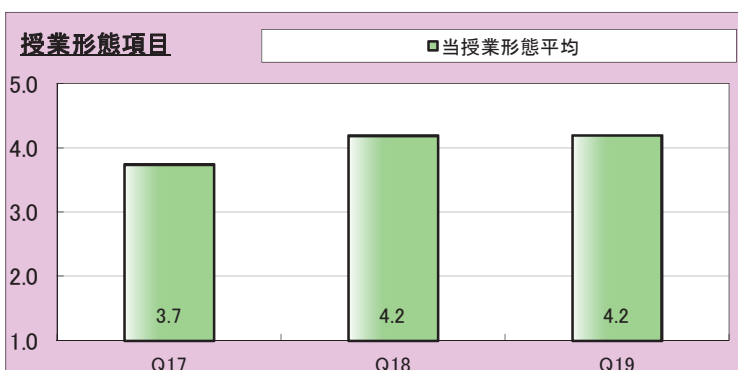
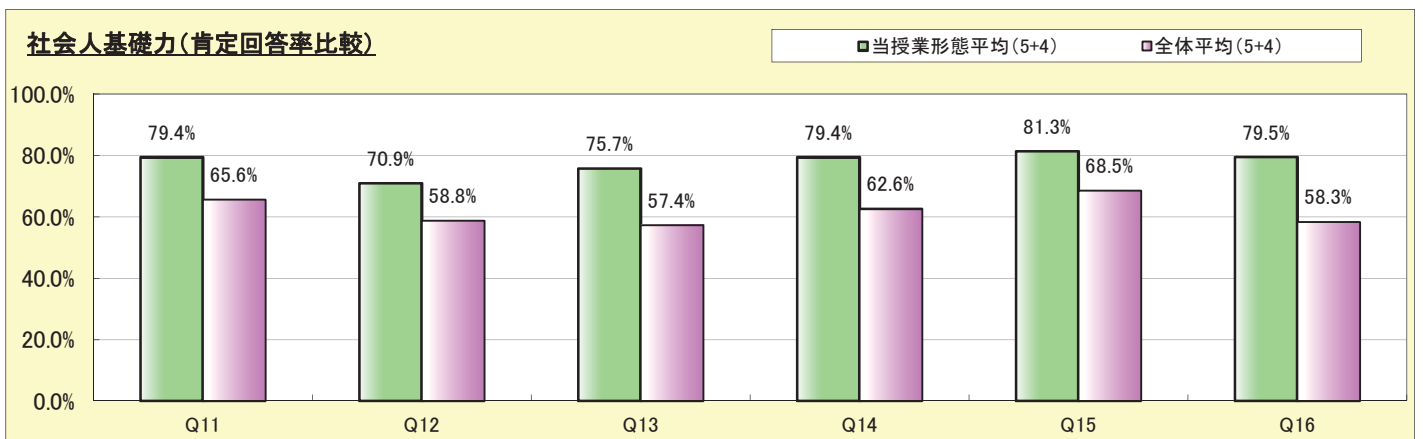
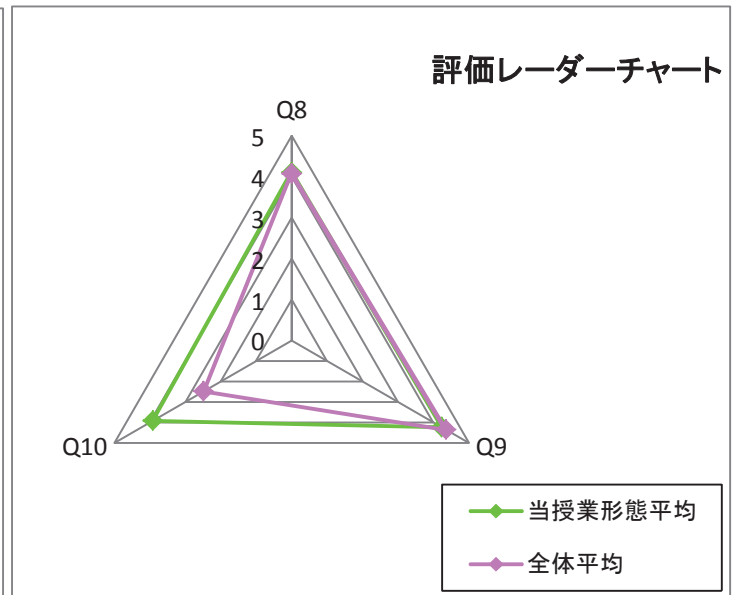
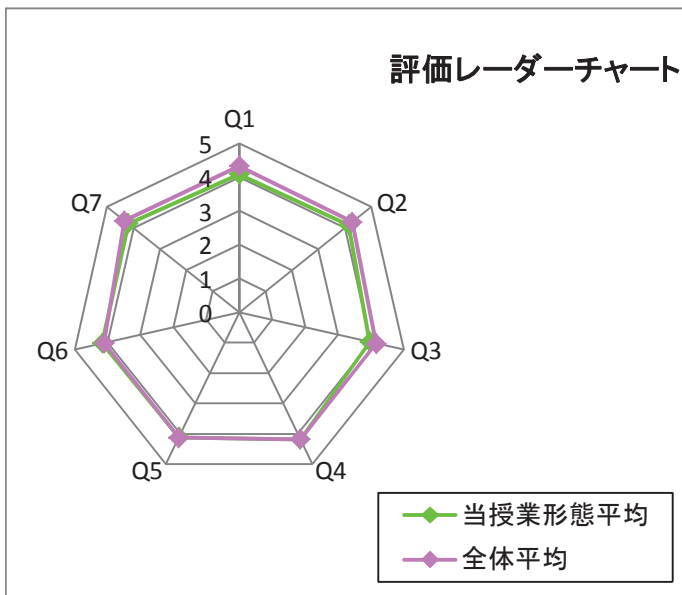
■授業形態

授業形態名
卒業研究

履修者数	334	全科目数	49
回答者数	270	実施科目数	49

【授業形態項目 ( 卒業研究 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q17	卒業研究の作成過程・出来栄に満足している	3.7	58	107	67	21	5	6	264	6	0.959
			22.0%	40.5%	25.4%	8.0%	1.9%	2.3%			
Q18	指導教員から適切な指導を受けた	4.2	135	74	34	16	6	0	265	5	1.023
			50.9%	27.9%	12.8%	6.0%	2.3%	0.0%			
Q19	卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった	4.2	115	100	39	7	3	0	264	6	0.867
			43.6%	37.9%	14.8%	2.7%	1.1%	0.0%			

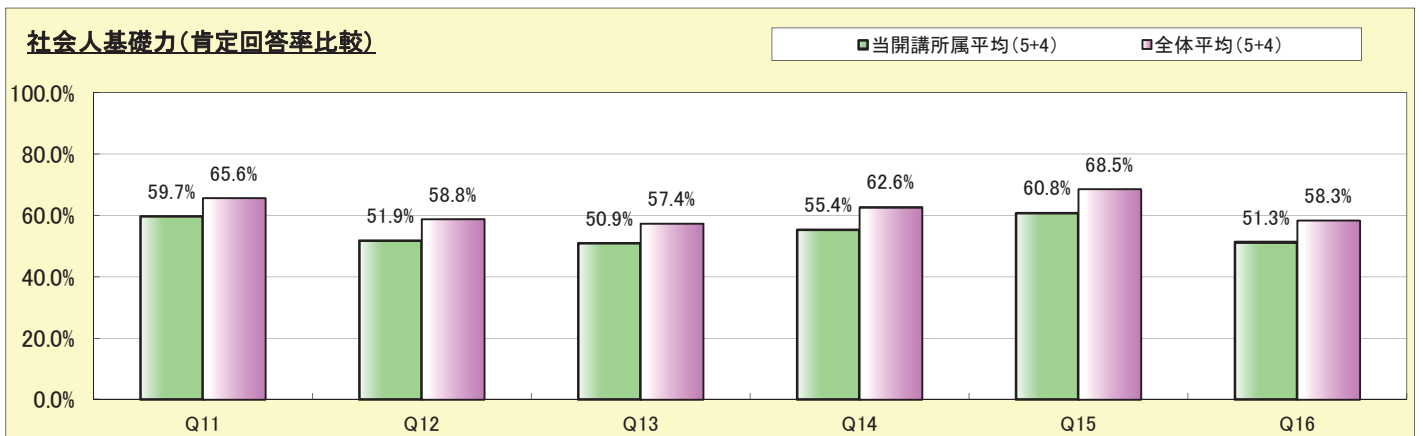
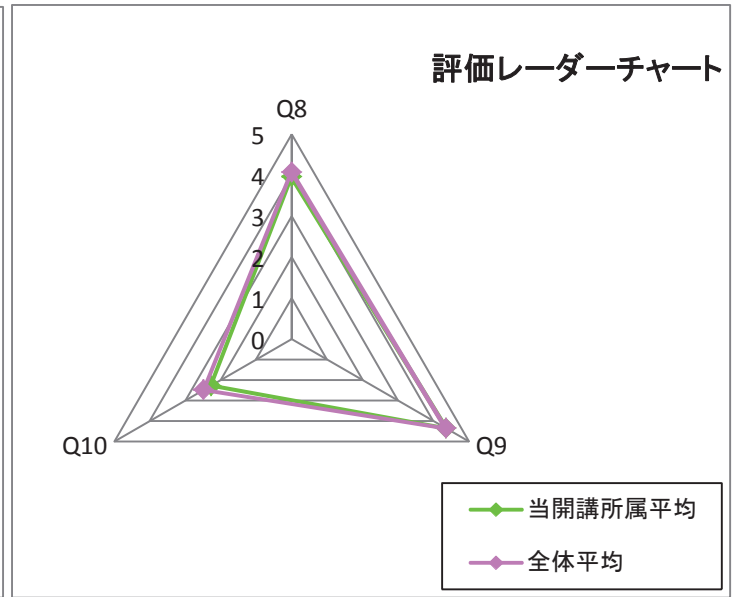
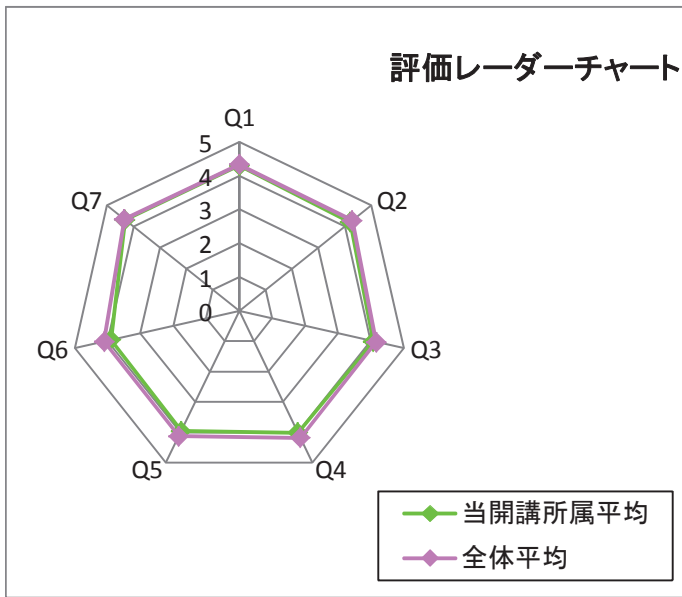




■開講所属

開講所属名
共通教育科目

履修者数	8,724	全科目数	231
回答者数	6,756	実施科目数	226



2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名		履修者数	871	全科目数	47
	資格関係		回答者数	711	実施科目数	45

■学年	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生	その他		計
	52	7.4%	224	31.7%	247	34.9%	179	25.3%	5	0.7%	0	0.0%

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生	その他		計
	109	15.5%	283	40.1%	75	10.6%	234	33.2%	4	0.6%	0	0.0%

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	321	318	63	5	3	0	710	1	0.703
			45.2%	44.8%	8.9%	0.7%	0.4%	0.0%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.2	326	280	69	22	13	0	710	1	0.886
			45.9%	39.4%	9.7%	3.1%	1.8%	0.0%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.1	263	293	114	25	13	1	709	2	0.912
			37.1%	41.3%	16.1%	3.5%	1.8%	0.1%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	322	261	72	35	19	0	709	2	0.982
			45.4%	36.8%	10.2%	4.9%	2.7%	0.0%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	280	294	95	26	14	0	709	2	0.915
			39.5%	41.5%	13.4%	3.7%	2.0%	0.0%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	292	272	89	32	24	0	709	2	1.007
			41.2%	38.4%	12.6%	4.5%	3.4%	0.0%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	357	275	59	14	2	0	707	4	0.744
			50.5%	38.9%	8.3%	2.0%	0.3%	0.0%			

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	253	310	98	25	19	0	705	6	0.937
			35.9%	44.0%	13.9%	3.5%	2.7%	0.0%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	424	185	56	22	17	0	704	7	0.935
			60.2%	26.3%	8.0%	3.1%	2.4%	0.0%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.6	65	120	155	156	185	19	700	11	1.307
			9.3%	17.1%	22.1%	22.3%	26.4%	2.7%			

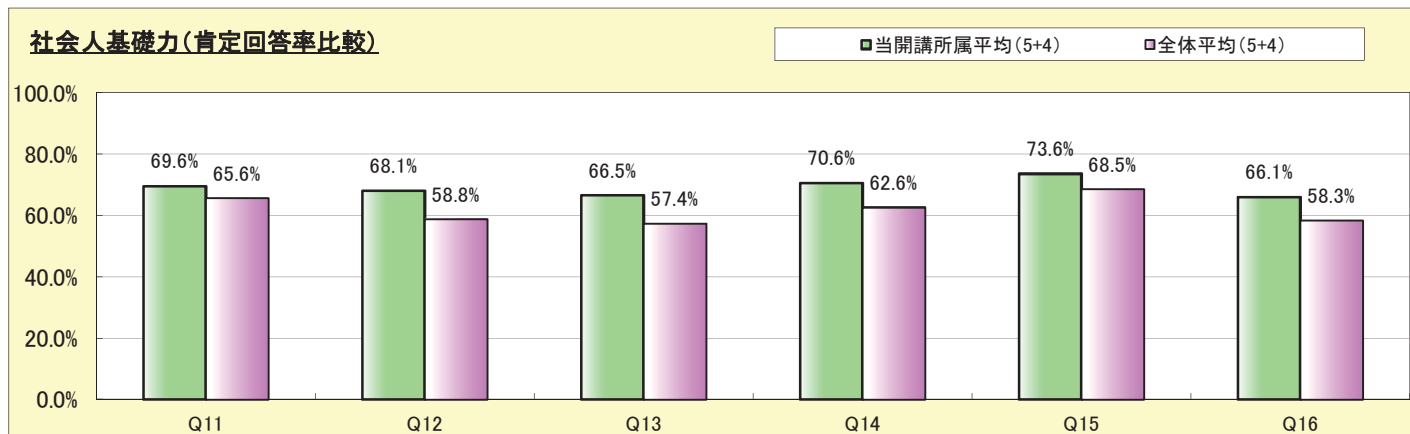
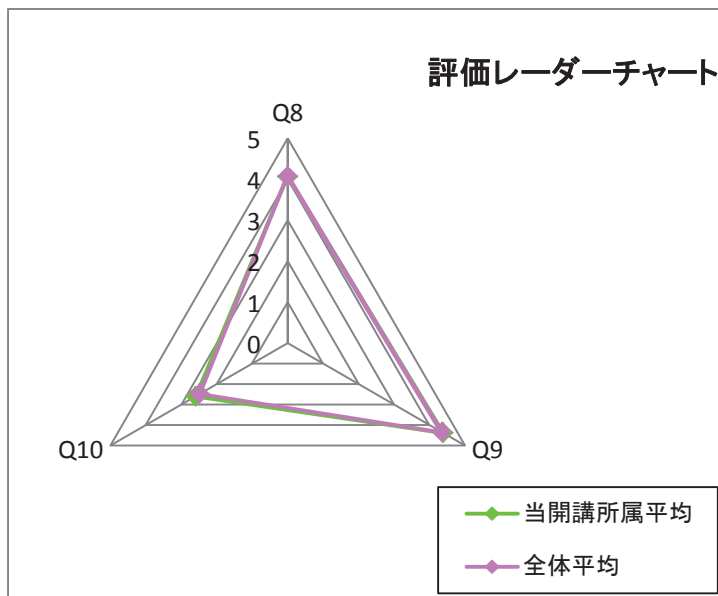
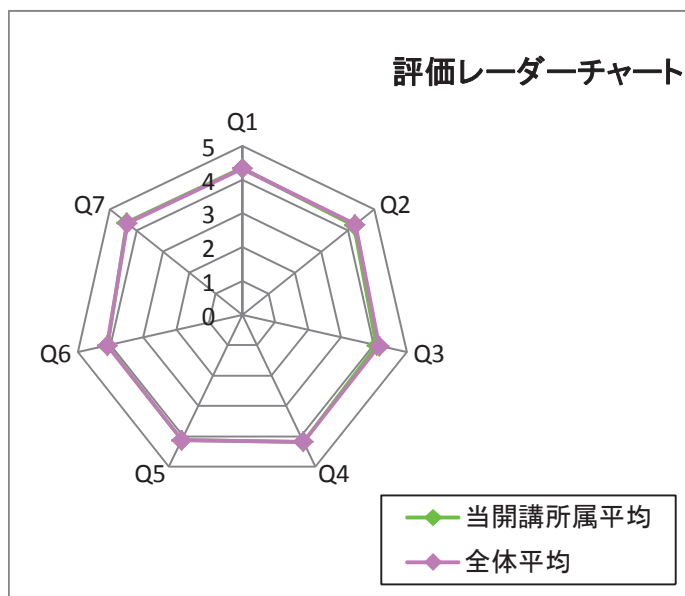
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	225	269	176	23	13	4	710	1	0.928
			31.7%	37.9%	24.8%	3.2%	1.8%	0.6%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	217	265	179	26	17	4	708	3	0.959
			30.6%	37.4%	25.3%	3.7%	2.4%	0.6%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	228	245	185	31	18	4	711	0	0.989
			32.1%	34.5%	26.0%	4.4%	2.5%	0.6%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	224	277	161	27	17	4	710	1	0.955
			31.5%	39.0%	22.7%	3.8%	2.4%	0.6%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	237	284	144	27	13	3	708	3	0.927
			33.5%	40.1%	20.3%	3.8%	1.8%	0.4%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	204	263	188	29	19	4	707	4	0.973
			28.9%	37.2%	26.6%	4.1%	2.7%	0.6%			

■開講所属

開講所属名
資格関係

履修者数	871	全科目数	47
回答者数	711	実施科目数	45



2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	4,586	全科目数	203
	英語英文学科専門教育科目				回答者数	3,596	実施科目数	192

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計					
	1,958	55.4%	798	22.6%	581	16.4%	189	5.3%	4	0.1%	3	0.1%

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計					
	3,445	97.8%	50	1.4%	14	0.4%	7	0.2%	4	0.1%	3	0.1%

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	1,940 54.3%	1,158 32.4%	404 11.3%	33 0.9%	29 0.8%	9 0.3%	3,573	23	0.786
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	1,887 52.8%	1,161 32.5%	386 10.8%	76 2.1%	42 1.2%	22 0.6%	3,574	22	0.845
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	1,690 47.4%	1,194 33.5%	518 14.5%	110 3.1%	39 1.1%	17 0.5%	3,568	28	0.888
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	1,846 51.7%	1,137 31.9%	414 11.6%	105 2.9%	50 1.4%	16 0.4%	3,568	28	0.889
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	1,775 49.7%	1,135 31.8%	477 13.4%	111 3.1%	51 1.4%	23 0.6%	3,572	24	0.906
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	1,640 45.9%	1,188 33.2%	520 14.6%	152 4.3%	59 1.7%	14 0.4%	3,573	23	0.946
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	2,021 56.8%	1,051 29.5%	363 10.2%	61 1.7%	40 1.1%	24 0.7%	3,560	36	0.827

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	1,594 44.7%	1,294 36.3%	516 14.5%	131 3.7%	21 0.6%	9 0.3%	3,565	31	0.865
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	2,093 58.9%	871 24.5%	410 11.5%	100 2.8%	47 1.3%	32 0.9%	3,553	43	0.894
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.8	453 12.8%	629 17.8%	935 26.5%	835 23.7%	632 17.9%	44 1.2%	3,528	68	1.281

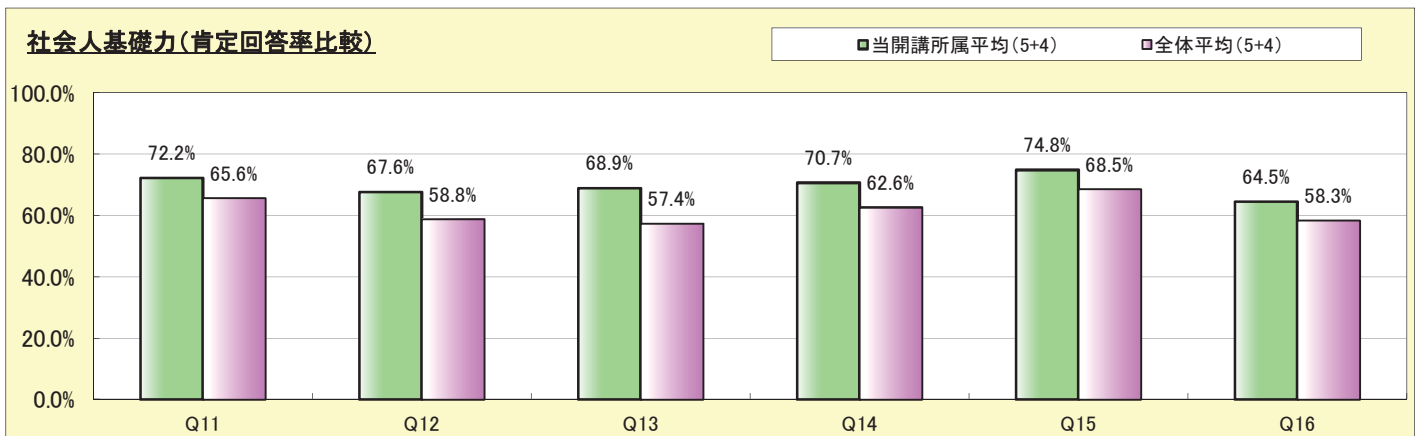
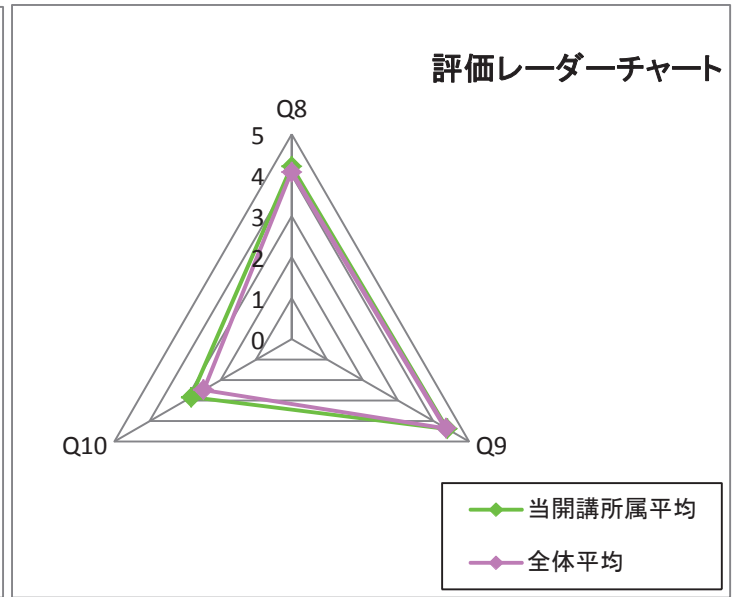
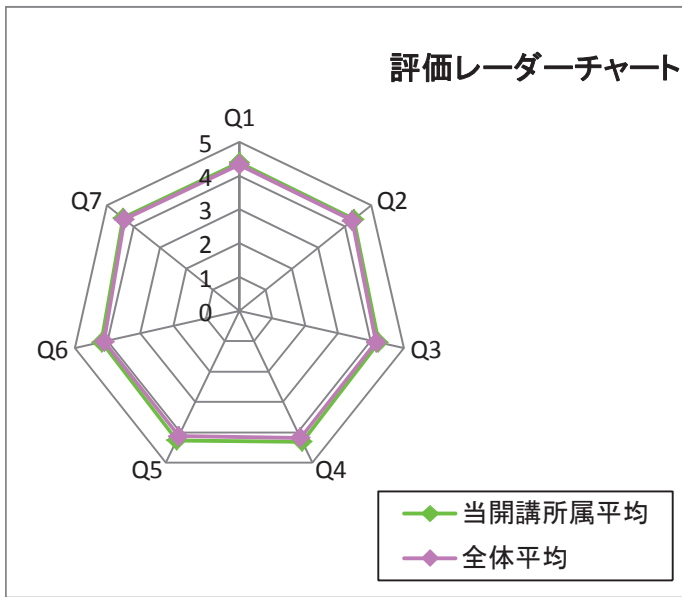
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	1,255 35.2%	1,322 37.1%	802 22.5%	91 2.6%	53 1.5%	44 1.2%	3,567	29	0.906
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	1,167 32.7%	1,250 35.0%	896 25.1%	115 3.2%	84 2.4%	61 1.7%	3,573	23	0.964
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.0	1,257 35.2%	1,204 33.7%	866 24.3%	109 3.1%	84 2.4%	50 1.4%	3,570	26	0.970
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.0	1,194 33.5%	1,325 37.2%	846 23.7%	84 2.4%	68 1.9%	48 1.3%	3,565	31	0.922
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	1,323 37.1%	1,345 37.7%	738 20.7%	73 2.0%	46 1.3%	41 1.1%	3,566	30	0.882
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	1,117 31.4%	1,178 33.1%	1,015 28.5%	110 3.1%	76 2.1%	60 1.7%	3,556	40	0.960

■開講所属

開講所属名
英語英文学科専門教育科目

履修者数	4,586	全科目数	203
回答者数	3,596	実施科目数	192





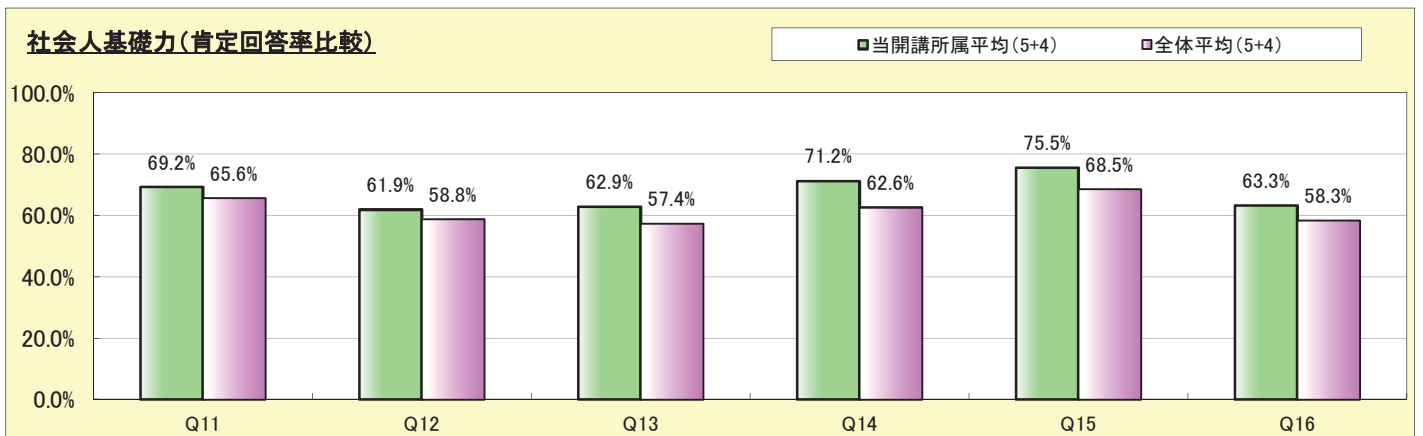
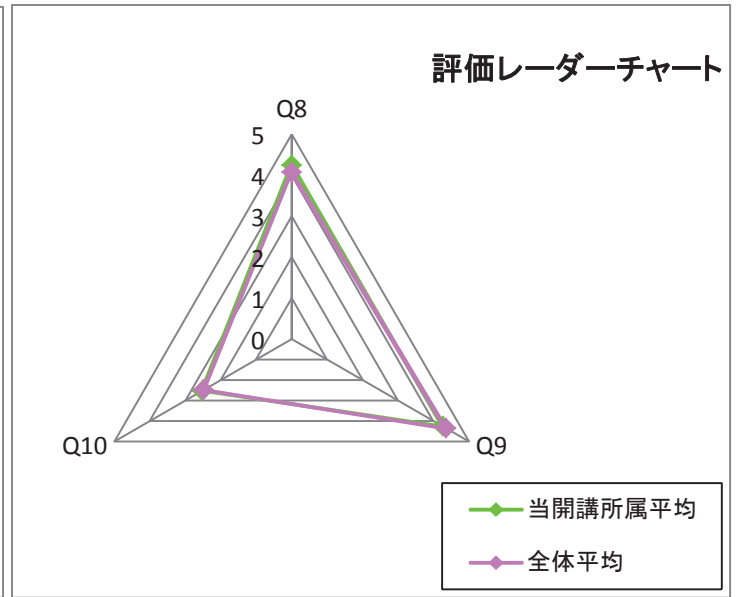
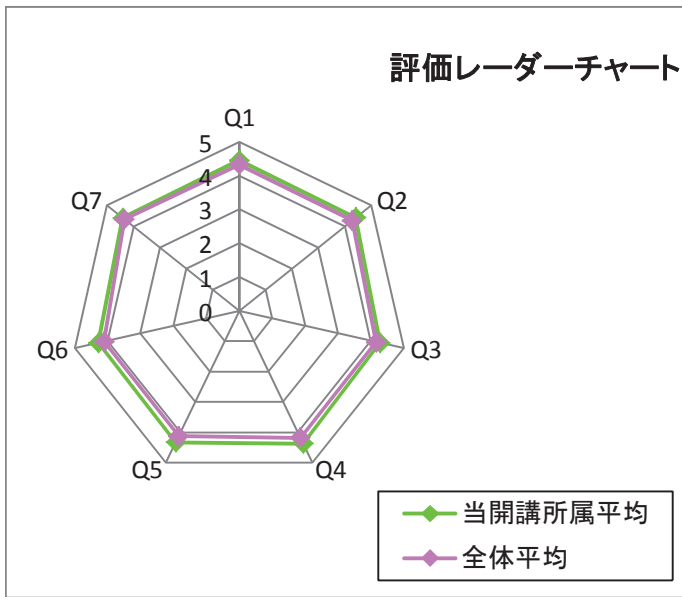




■開講所属

開講所属名
人間文化学科専門教育科目

履修者数	1,909	全科目数	116
回答者数	1,485	実施科目数	114



2014年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	102	全科目数	12
	人間文化学部共通科目				回答者数	84	実施科目数	11

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	36 43.9%	25 30.5%	19 23.2%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	82

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	41 50.6%	40 49.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	81

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	47	27	9	0	1	0	84	0	0.775
			56.0%	32.1%	10.7%	0.0%	1.2%	0.0%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	45	28	9	2	0	0	84	0	0.770
			53.6%	33.3%	10.7%	2.4%	0.0%	0.0%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	39	28	13	4	0	0	84	0	0.874
			46.4%	33.3%	15.5%	4.8%	0.0%	0.0%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.4	44	29	7	2	1	0	83	1	0.830
			53.0%	34.9%	8.4%	2.4%	1.2%	0.0%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	43	27	9	5	0	0	84	0	0.881
			51.2%	32.1%	10.7%	6.0%	0.0%	0.0%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	36	33	10	3	2	0	84	0	0.936
			42.9%	39.3%	11.9%	3.6%	2.4%	0.0%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	48	25	7	2	1	0	83	1	0.836
			57.8%	30.1%	8.4%	2.4%	1.2%	0.0%			

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.4	45	29	7	2	0	0	83	1	0.745
			54.2%	34.9%	8.4%	2.4%	0.0%	0.0%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.1	42	22	9	6	3	1	83	1	1.106
			50.6%	26.5%	10.8%	7.2%	3.6%	1.2%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.7	9	13	22	15	20	4	83	1	1.315
			10.8%	15.7%	26.5%	18.1%	24.1%	4.8%			

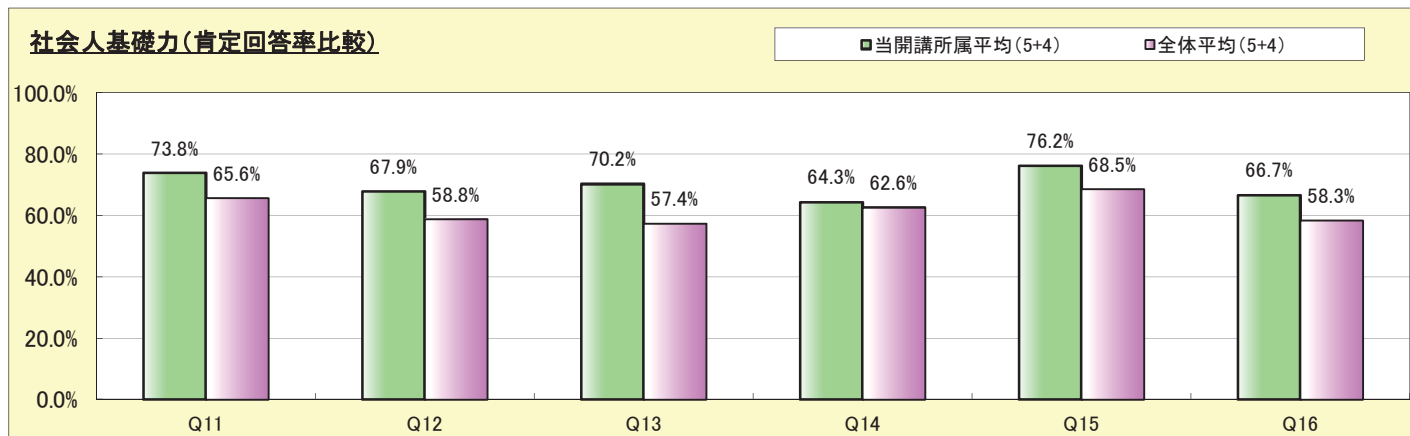
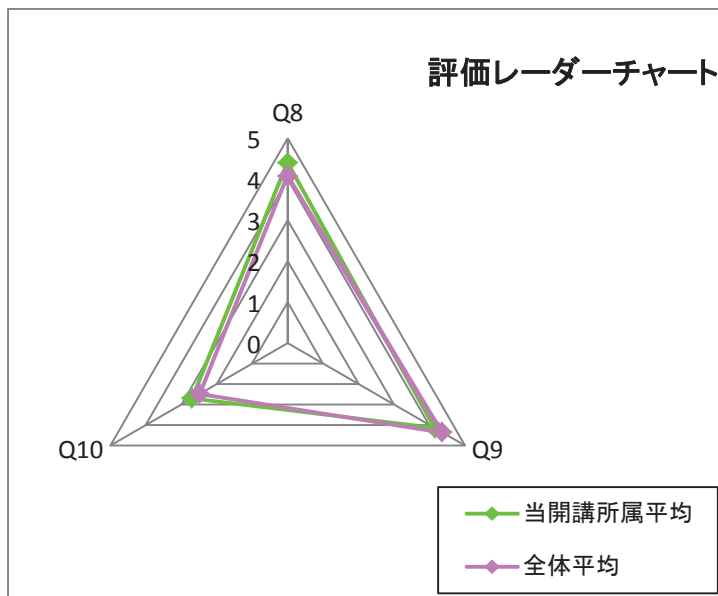
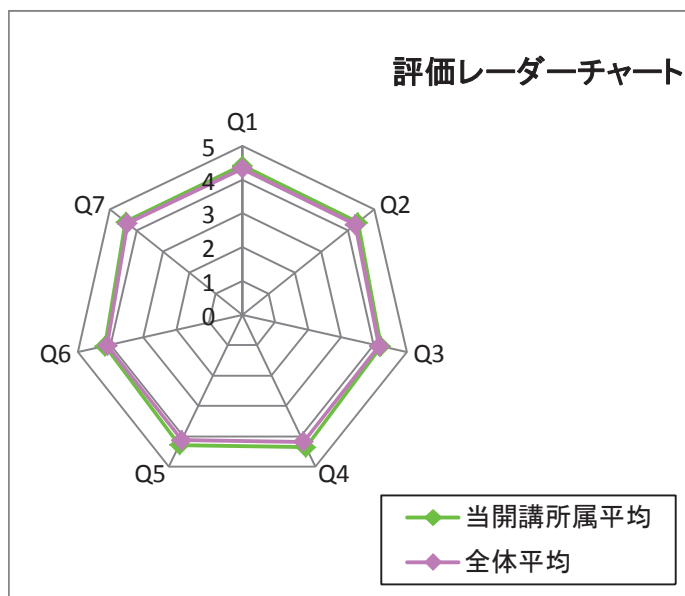
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	30	32	17	1	3	1	84	0	0.969
			35.7%	38.1%	20.2%	1.2%	3.6%	1.2%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	4.0	33	24	22	1	3	1	84	0	1.018
			39.3%	28.6%	26.2%	1.2%	3.6%	1.2%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.0	34	25	19	3	2	1	84	0	0.999
			40.5%	29.8%	22.6%	3.6%	2.4%	1.2%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	24	30	25	2	2	1	84	0	0.941
			28.6%	35.7%	29.8%	2.4%	2.4%	1.2%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	30	34	16	1	2	1	84	0	0.902
			35.7%	40.5%	19.0%	1.2%	2.4%	1.2%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	27	29	22	1	4	1	84	0	1.030
			32.1%	34.5%	26.2%	1.2%	4.8%	1.2%			

■開講所属

開講所属名
人間文化学部共通科目

履修者数	102	全科目数	12
回答者数	84	実施科目数	11

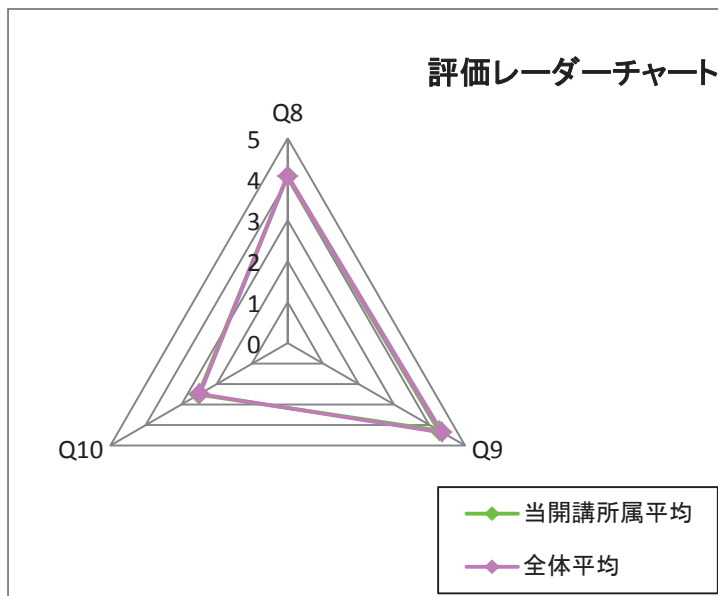
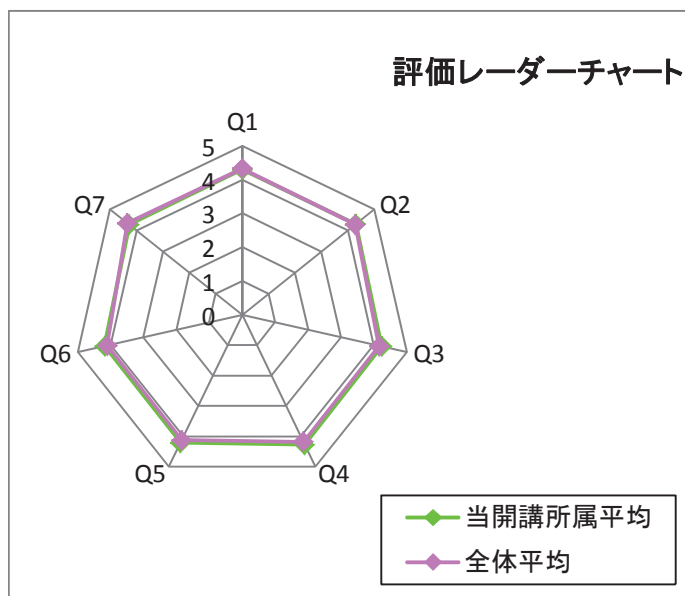




■開講所属

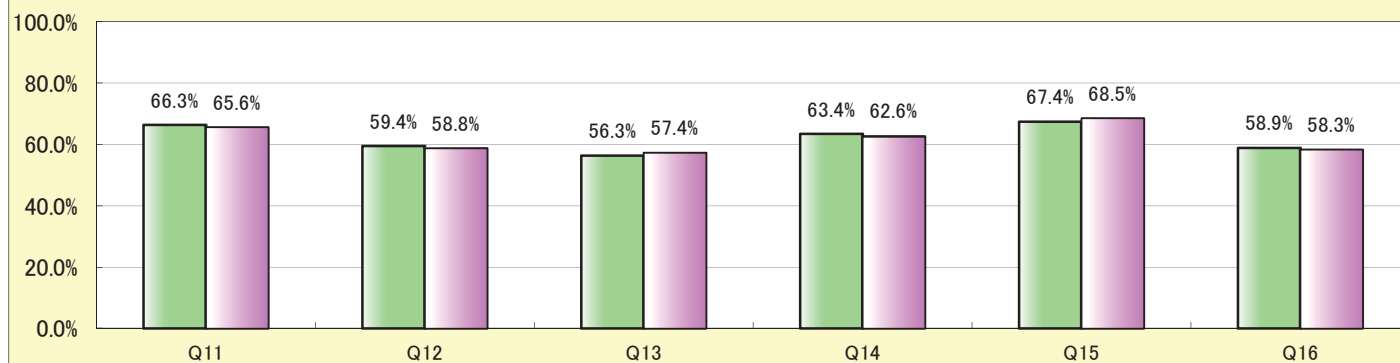
開講所属名
生活福祉文化学部専門教育科目

履修者数	4,310	全科目数	207
回答者数	3,514	実施科目数	198



社会人基礎力(肯定回答率比較)

■当開講所属平均(5+4) □全体平均(5+4)

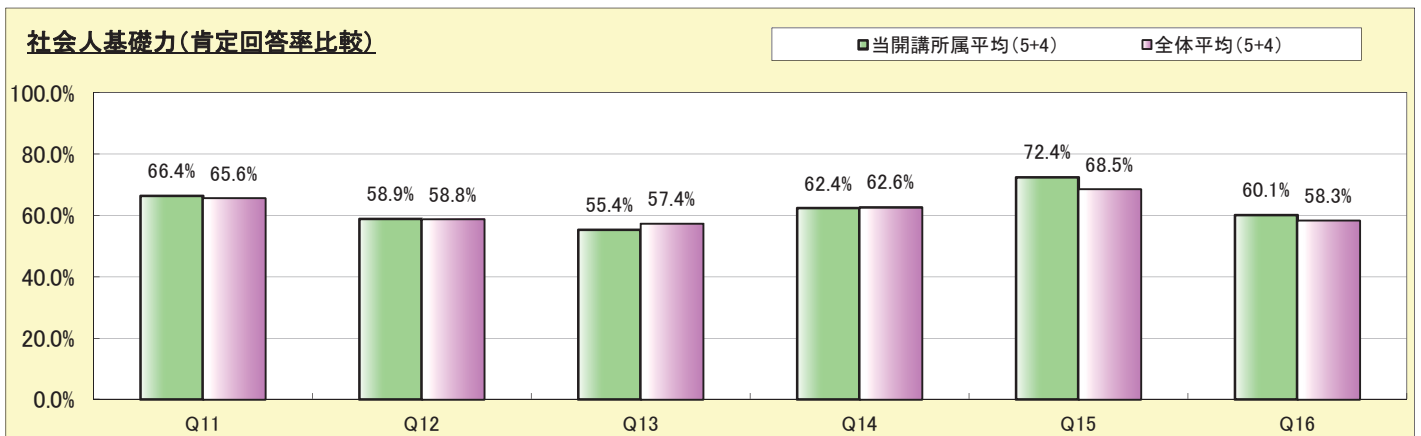
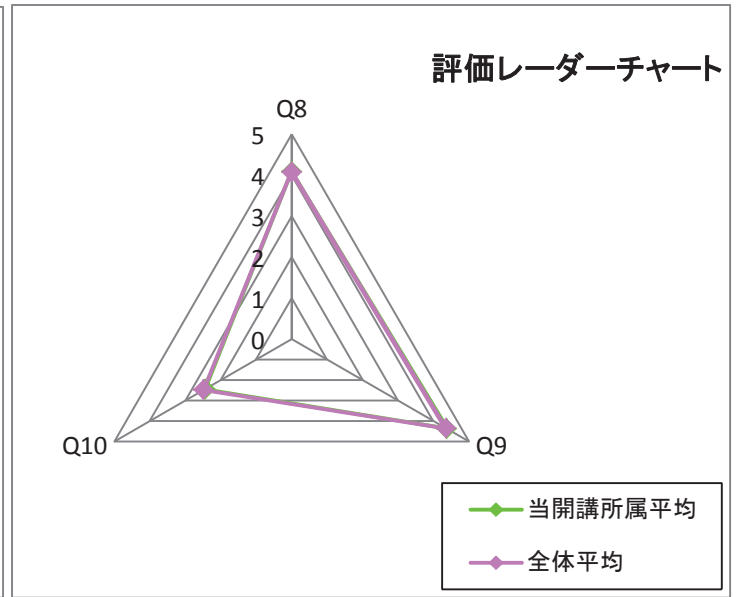
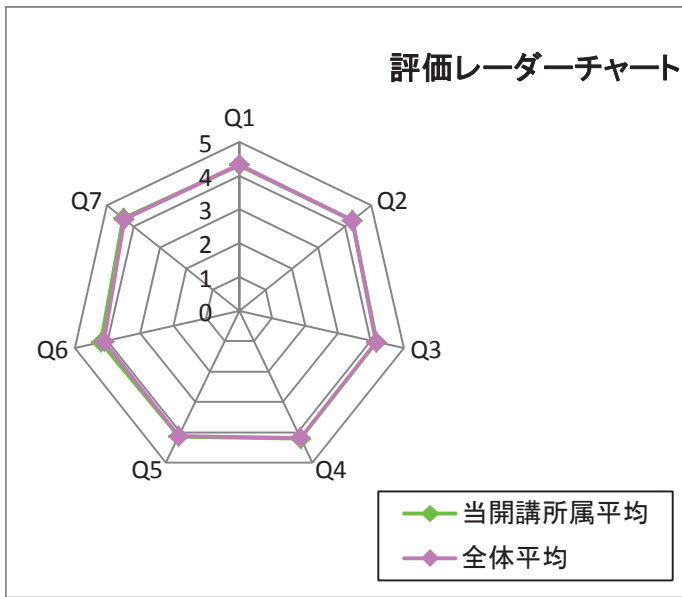




■開講所属

開講所属名
心理学部専門教育科目

履修者数	6,440	全科目数	154
回答者数	5,030	実施科目数	135





## 4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

### はじめに

2014（平成 26）年度の授業評価アンケートでは質問項目のうちQ1～Q16は昨年度から変更は行わなかった。Q10は授業以外での学習時間を問うているが、これ以外の項目では、回答の選択肢の数を昨年度の5項目から「5. そう思う」「4. どちらかと言えばそう思う」「3. どちらともいえない」「2. どちらかと言えばそう思わない」「1. そう思わない」「0. 該当しない」の6項目に変更した。今年度より新たに授業形態別（講義、演習、実習、卒業研究）の質問項目Q17～Q19を追加した。

### 全学的観点から見た回答の傾向

全学のアンケート結果集計表により、全体の回答傾向を検討した。

まず、「授業の状況（Q1～Q7）」の結果では、すべての質問項目で「5. そう思う」の回答が最も多くなり、最高で4.4、最低でも4.1であった。この結果から授業の状況はおおむね高い評価を学生から得ていると思われる。2013（平成 25）年度と比較するとQ1、Q2、Q7で前年度を上回っているものの、Q3、は同数値であり、Q4、Q5、Q6については若干の低下であった。

学生の「学習の状況」（Q8～Q10）についてはQ8「授業の内容は理解できた」で「4. どちらかと言えばそう思う」の回答が最も多くなっているが、「5. そう思う」との差は0.1%であり、さらに2013（平成 25）年度と比較すると2.6%低下している。ただし、「2. どちらかと言えばそう思わない」「1. そう思わない」という理解しづらかったという意見が微増しているので、一部の授業また一部の学生には授業内容の理解が伴っていないことも考えられる。

授業内容が理解できないということに関しては教員サイドで授業内容がより理解しやすくなるような創意工夫が求められるが、それ以外にも学生に対する個別支援などの検討も必要ではないかと考える。

Q10の授業以外での学習時間については2013（平成 25）年度と同様に1.0時間が最も多いうえに微増していた。5.2時間以上と4.1～2時間未満を合わせると23.2%となるが、1.0時間との回答は29.8%と高い数値である。昨年度も授業以外での学習時間については改善策の検討が必要とされたが、今回も同様な結果となったので精力的かつ抜本的な方策が必要である。

社会人基礎力を見るための「学習成果（Q11～Q16）」は2013（平成 25）年度がすべての項目で、「4. どちらかと言えばそう思う」となっていたが、今回はQ11、Q12、Q14、Q15、Q16が「4. どちらかと言えばそう思う」であり、Q13「この授業でコミュニケーションする力が向上した」とQ16「この授業で主体的に行動する力が向上した」は、「3. どちらともいえない」（ただしQ16は4と3が同数）が最も多かった。さらに全体平均では最高で3.9、最低で3.7と4を下回っていた。だが、昨年度の報告書でもふれているが、社会人基礎力は6つの能力すべてを1つの授業で養成できるということでは必ずしもない。よって各授業ごとに関連している能力を1つ以上設定しているのであって、この単純集計からのみ十分な社会人基礎力が培われていないとはいえないと考える。

### 自由記述から見られる課題

全学のアンケート結果の中からはおおむね良好な結果を得ていると思われるが、自由記述の結果からいくつかの問題点を抽出したい。

#### ・改善すべき点について

「黒板の字を丁寧に書いてほしい」「黒板の字が読みにくい」「授業での声が小さい」「声が小さくて



聞き取りにくい」という基本的な部分についての指摘は少なからずあったが、声はマイクを使う工夫ができると思うが、黒板の字についてはパワーポイントの使用や印刷プリントなどの使用や併用が必要かもしれない。

「専門用語の説明がない」「質問に答えてもらえなかった」「内容が難しすぎる」「理解できにくい」という指摘に対しては、授業での教員の確認や説明などが必要とされると考える。

・良かった点について

「説明がわかりやすかった」「ためになる授業だった」「楽しかった」「よい学びになった」「先生の対応が丁寧だった」「授業に出席するのが楽しくなった」などがあげられていた。

各授業の授業評価アンケートの結果だけでなく、オープンクラスを今後も継続し、「参観・実施シート」を活用し、また、学部学科および研修会などを通じて、授業内容、授業改善を検討していく必要がある。

## おわりに

2013（平成 25）年度から実施している授業担当教員によるフィードバックコメントの学内公開は今年度も実施した。これは授業評価アンケートの結果を受けての授業改善や自由記述での学生からの質問や意見に対する対処が必要であることから実施している。前期および後期の授業評価アンケートのフィードバックにより、前期よりは後期、後期よりは次年度の授業が改善され、学生の授業に対する理解が高まるように教員個々の取り組みはもちろんのこと FD 委員会による研修会等の実施も行いながら授業の質のさらなる向上につなげていかなければならない。

文責：三好 明夫（生活福祉文化学部生活福祉文化学科 FD 委員）













## II 2014（平成26）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

### 1. 実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

### 2. 実施方法

#### 1) 実施期間

2014（平成26）年12月1日(月)～2015（平成27）年2月9日(月)に実施した。

#### 2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

#### 3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回収数 (名)	回収率
人間文化研究科	応用英語専攻	2	2	100.0 %
	人間文化専攻	3	3	100.0 %
	生活福祉文化専攻	9	5	55.6 %
	計	14	10	71.4 %
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	3	2	66.7 %
	臨床心理学専攻	14	11	78.6 %
	計	17	13	76.5 %
計		31	23	74.2 %

#### 4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述2問であった。

#### 調査項目

##### (1) 評価項目

###### 選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください
- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください

## (2) 回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の5件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

## 5) 実施手順

人間文化研究科、応用英語専攻及び人間文化専攻については、教員が調査票を大学院生に対して個別に配付した。生活福祉文化専攻については、M1は中間発表会時、M2は修士論文指導教員から配付した。心理学研究科については、修士論文発表会時に配付した。回収は各大学院生が教務部学事課に提出した。

## 6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

## 7) 教員への結果通知と集計結果の配付

研究科全体の結果は専任教員全員に、各専攻の結果は各専攻所属教員にメールに集計結果を添付し配信した。

■専攻

回答者数	23
------	----

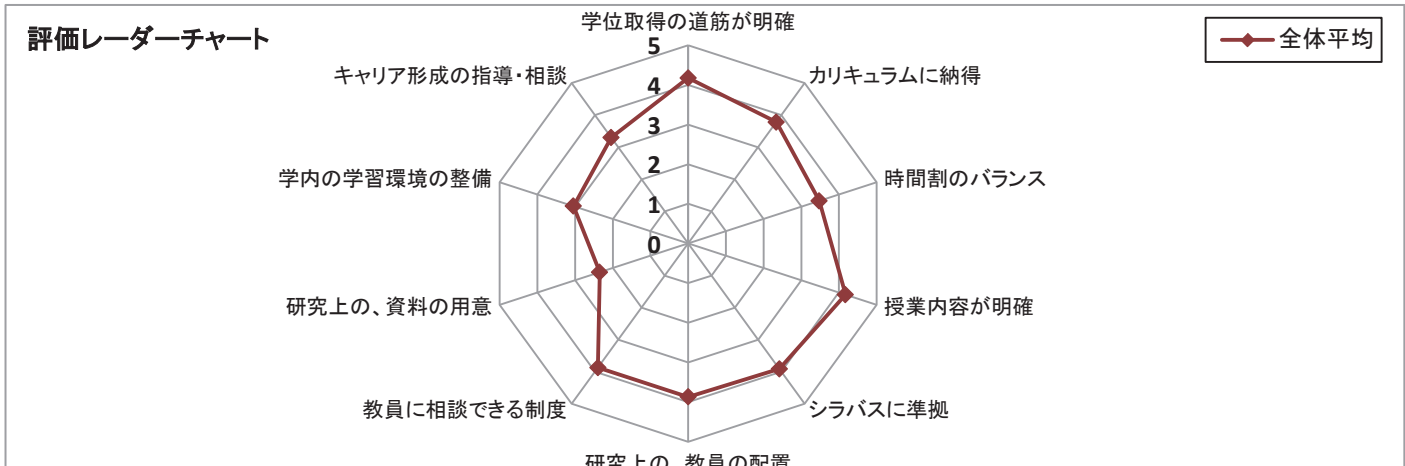
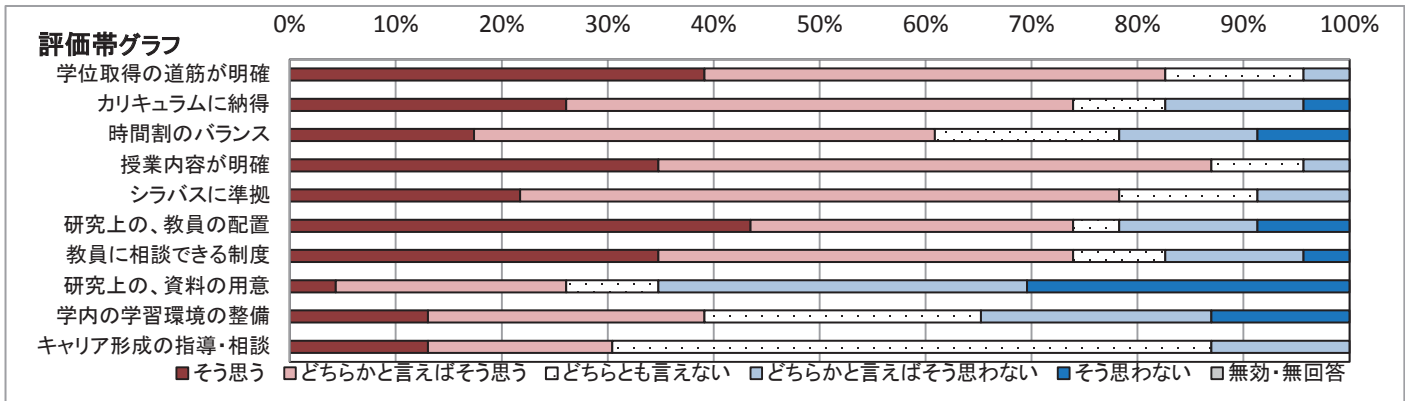
応用英語専攻	生活福祉文化専攻	人間文化専攻	発達・学校心理学専攻	臨床心理学専攻	心理学専攻	科目等履修生	計
2 8.7%	5 21.7%	3 13.0%	2 8.7%	11 47.8%	0 0.0%	0 0.0%	23

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
3 13.0%	17 73.9%	1 4.3%	2 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	23

5: と思う 4: どちらかと言えば思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	9 39.1%	10 43.5%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	23	0	0.816
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	6 26.1%	11 47.8%	2 8.7%	3 13.0%	1 4.3%	23	0	1.102
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	4 17.4%	10 43.5%	4 17.4%	3 13.0%	2 8.7%	23	0	1.175
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	8 34.8%	12 52.2%	2 8.7%	1 4.3%	0 0.0%	23	0	0.761
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	5 21.7%	13 56.5%	3 13.0%	2 8.7%	0 0.0%	23	0	0.830
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	10 43.5%	7 30.4%	1 4.3%	3 13.0%	2 8.7%	23	0	1.329
Q7	オフィスパワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	8 34.8%	9 39.1%	2 8.7%	3 13.0%	1 4.3%	23	0	1.154
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	1 4.3%	5 21.7%	2 8.7%	8 34.8%	7 30.4%	23	0	1.237
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	3 13.0%	6 26.1%	6 26.1%	5 21.7%	3 13.0%	23	0	1.233
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3 13.0%	4 17.4%	13 56.5%	3 13.0%	0 0.0%	23	0	0.856





■研究科

回答者数	10
------	----

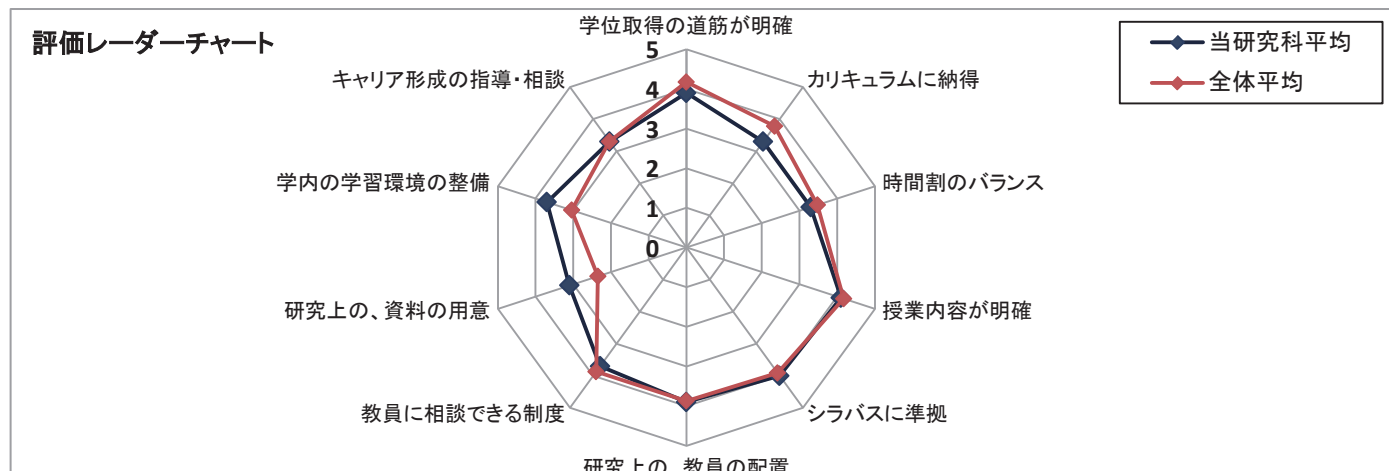
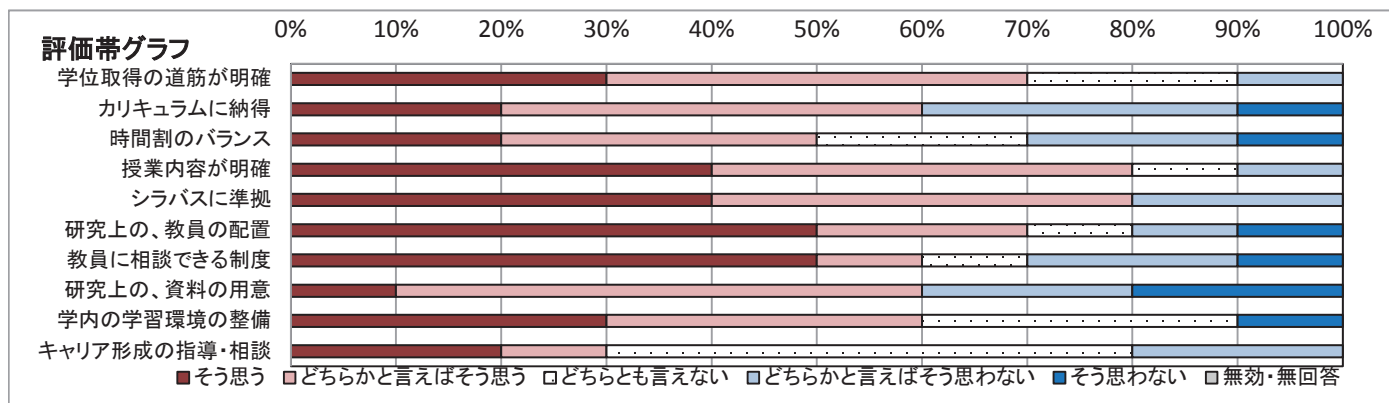
人間文化研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計							
0	0.0%	9	90.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	3.9	3	4	2	1	0	10	0	0.943
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.3	2	4	0	3	1	10	0	1.345
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.3	2	3	2	2	1	10	0	1.269
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.1	4	4	1	1	0	10	0	0.943
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	4.0	4	4	0	2	0	10	0	1.095
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	3.9	5	2	1	1	1	10	0	1.375
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	3.7	5	1	1	2	1	10	0	1.487
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	3.1	1	5	0	2	2	10	0	1.375
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	3.7	3	3	3	0	1	10	0	1.187
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.3	2	1	5	2	0	10	0	1.005



■専攻

回答者数 2

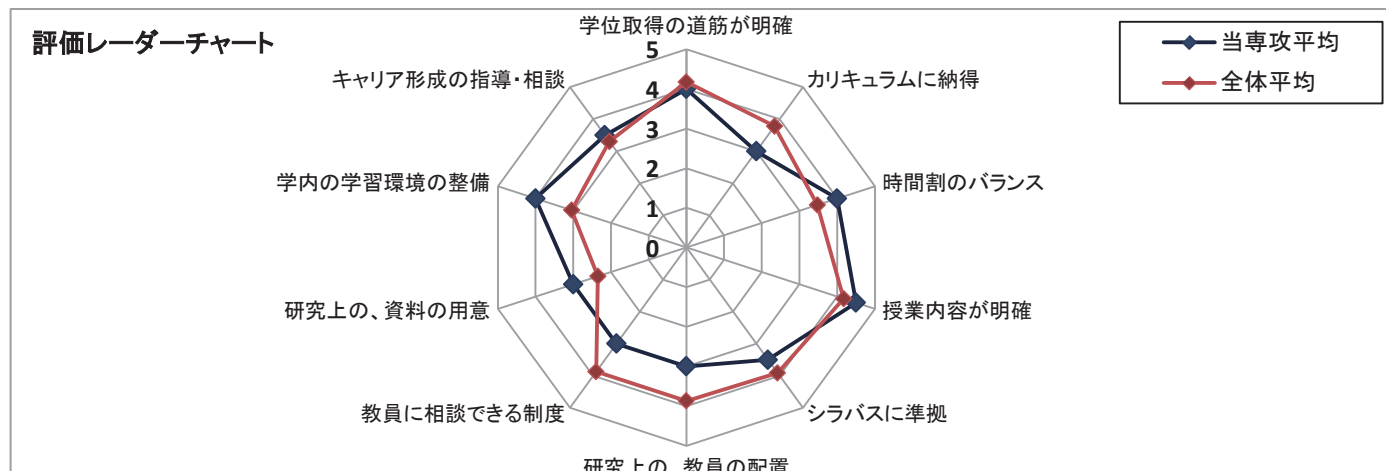
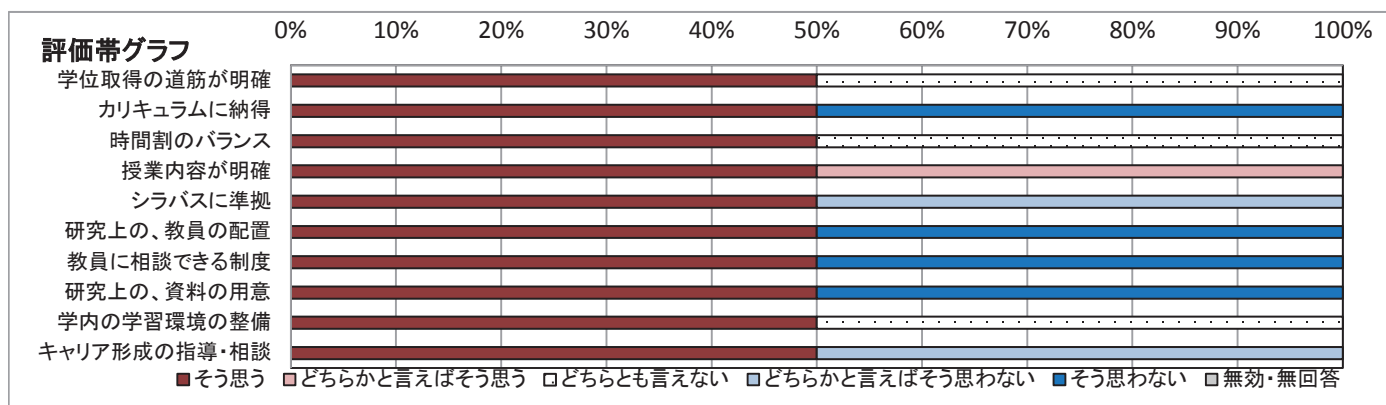
応用英語専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	4.0	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	1.000
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.0	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2	0	2.000
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	4.0	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	1.000
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.5	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	3.5	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2	0	1.500
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	3.0	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2	0	2.000
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	3.0	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2	0	2.000
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	3.0	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2	0	2.000
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	4.0	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	1.000
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.5	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2	0	1.500



■専攻

回答者数 3

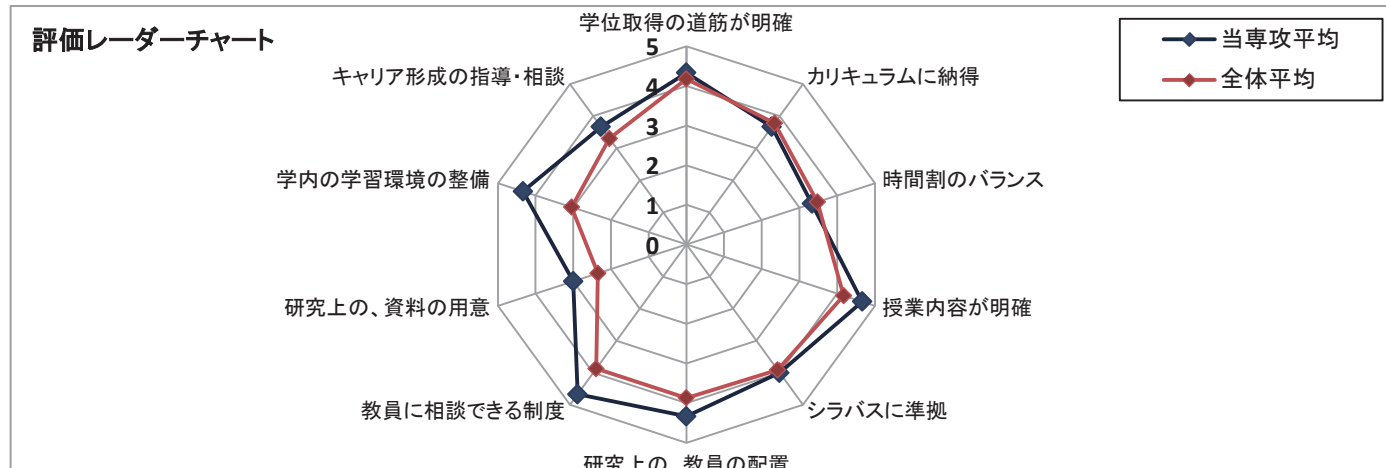
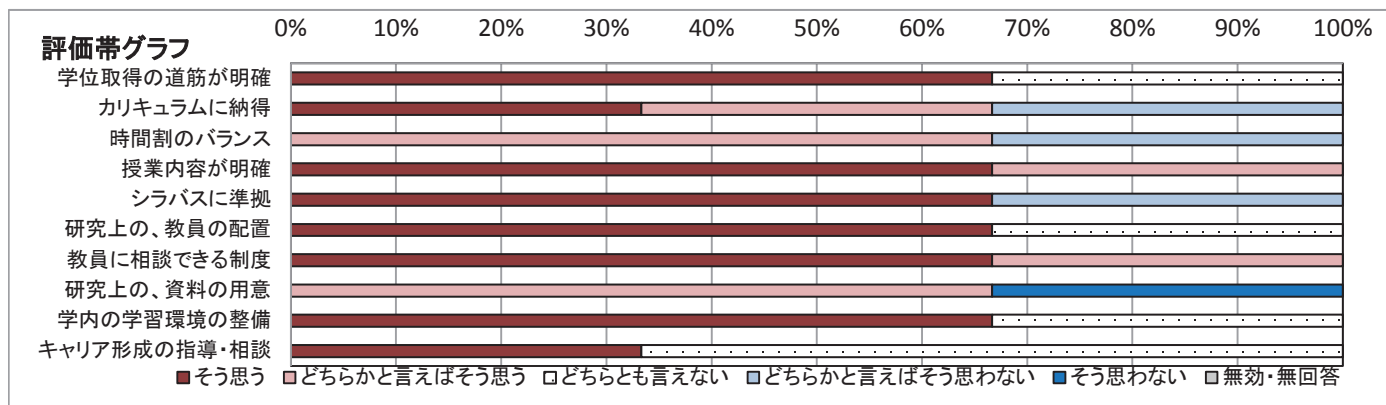
人間文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計					
0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	4.3	2	0	1	0	0	3	0	0.943
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.7	1	1	0	1	0	3	0	1.247
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.3	0	2	0	1	0	3	0	0.943
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.7	2	1	0	0	0	3	0	0.471
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	4.0	2	0	0	1	0	3	0	1.414
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	4.3	2	0	1	0	0	3	0	0.943
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	4.7	2	1	0	0	0	3	0	0.471
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	3.0	0	2	0	0	1	3	0	1.414
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	4.3	2	0	1	0	0	3	0	0.943
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.7	1	0	2	0	0	3	0	0.943



■専攻

回答者数 5

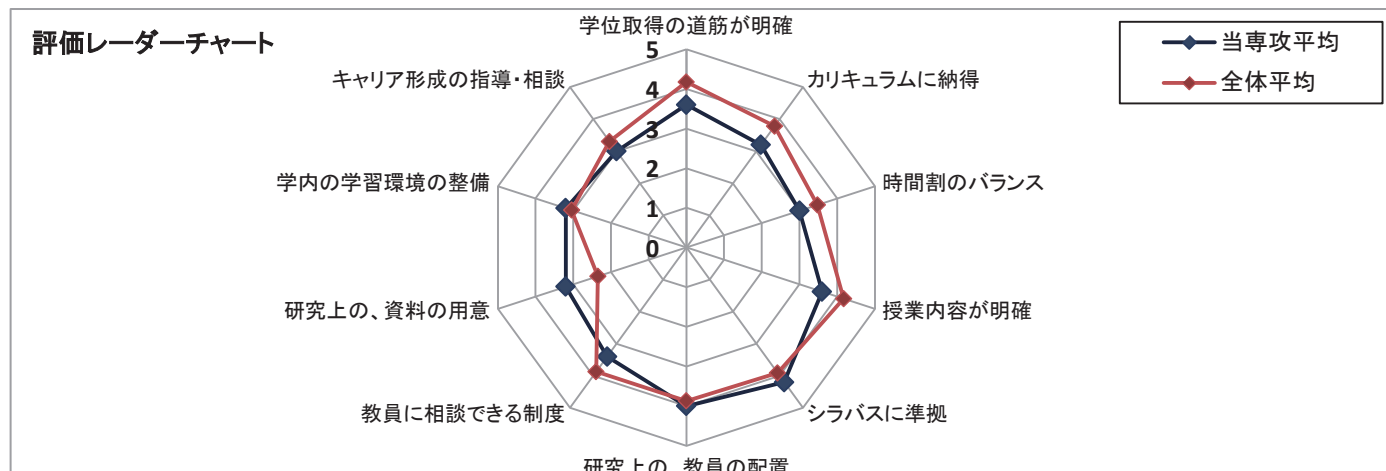
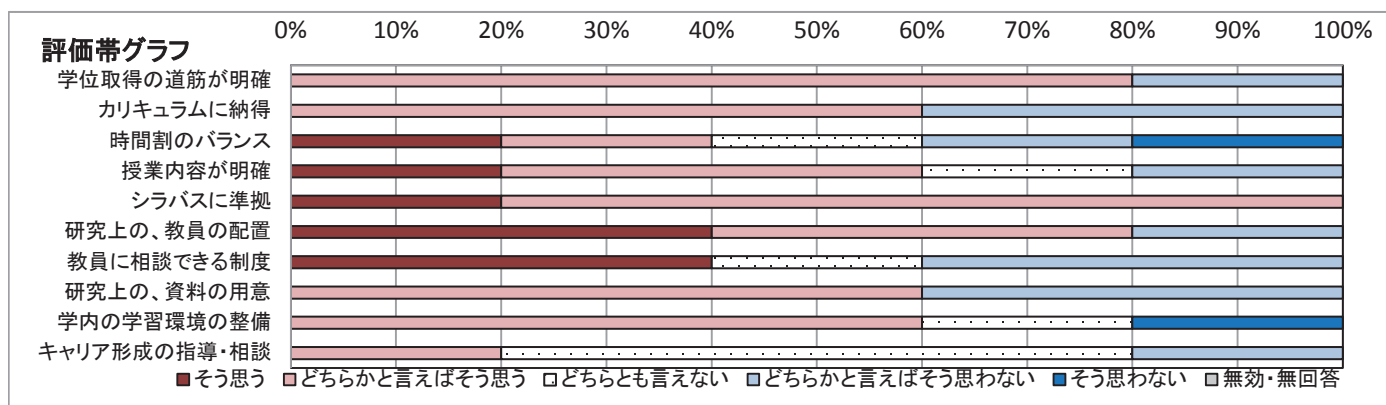
生活福祉文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計							
0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	3.6	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5	0	0.800
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.2	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	5	0	0.980
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.0	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	5	0	1.414
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	3.6	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	5	0	1.020
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	4.2	1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5	0	0.400
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	4.0	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5	0	1.095
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	3.4	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	5	0	1.356
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	3.2	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	5	0	0.980
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	3.2	0 0.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	5	0	1.166
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.0	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	5	0	0.632



■研究科

回答者数	13
------	----

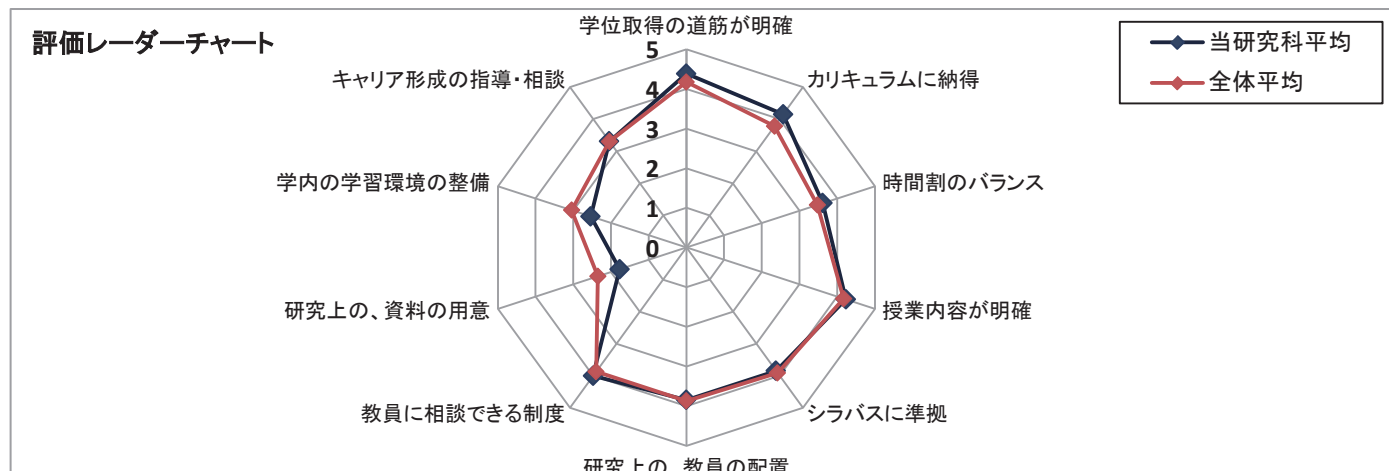
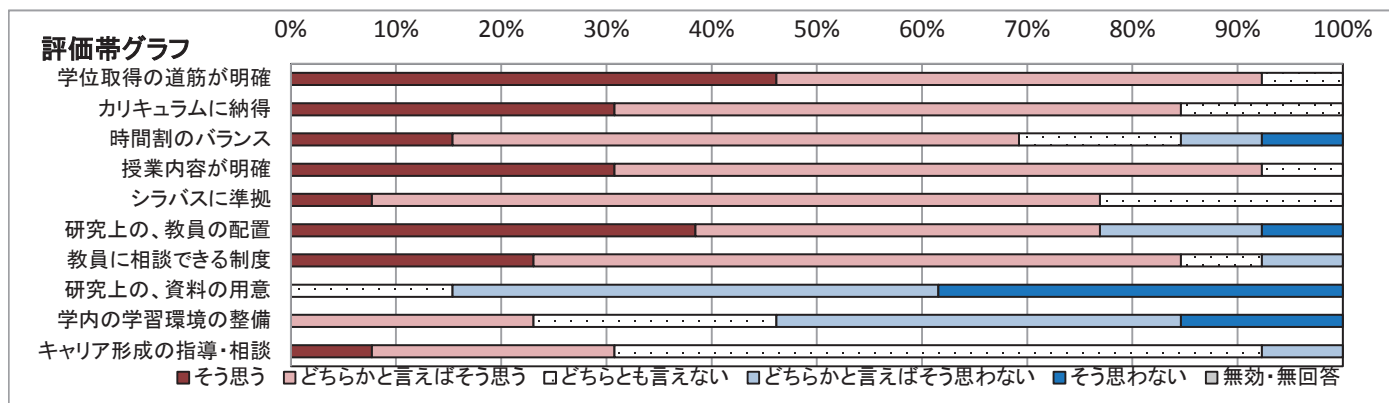
心理学研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計
3 23.1%	8 61.5%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	4.4	6 46.2%	6 46.2%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.625
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	4.2	4 30.8%	7 53.8%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.662
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.6	2 15.4%	7 53.8%	2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	13	0	1.077
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.2	4 30.8%	8 61.5%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.576
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	3.8	1 7.7%	9 69.2%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.533
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	3.8	5 38.5%	5 38.5%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	13	0	1.292
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	4.0	3 23.1%	8 61.5%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.784
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	1.8	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	6 46.2%	5 38.5%	13	0	0.697
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	2.5	0 0.0%	3 23.1%	3 23.1%	5 38.5%	2 15.4%	13	0	1.009
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.3	1 7.7%	3 23.1%	8 61.5%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.722





■専攻

回答者数 2

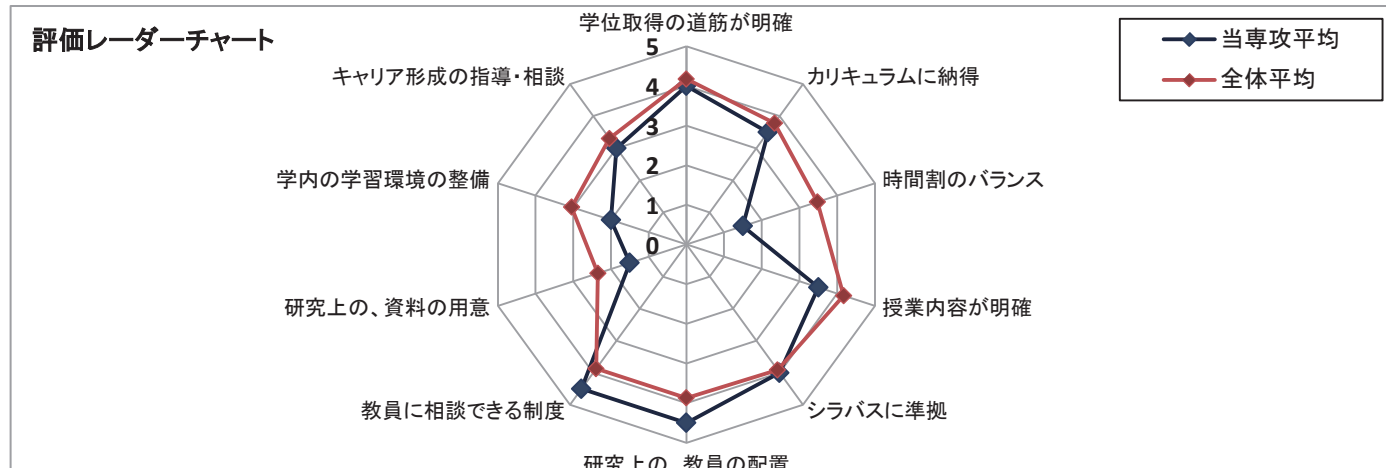
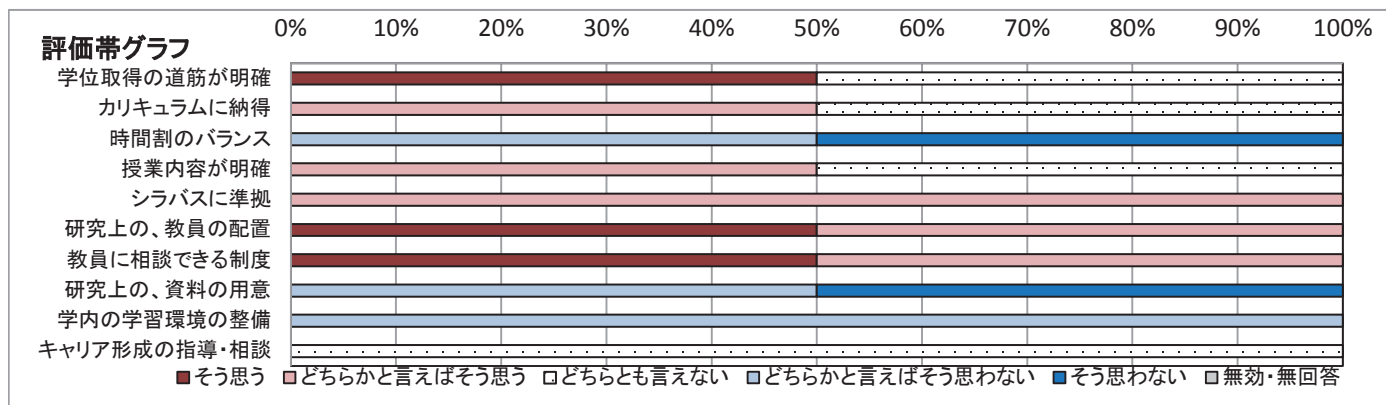
発達・学校心理学専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	4.0	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	1.000
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.5	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.500
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	1.5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2	0	0.500
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	3.5	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	4.0	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.000
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	4.5	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.500
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	4.5	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.500
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	1.5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2	0	0.500
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	2.0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2	0	0.000
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.0	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2	0	0.000



■専攻

回答者数 11

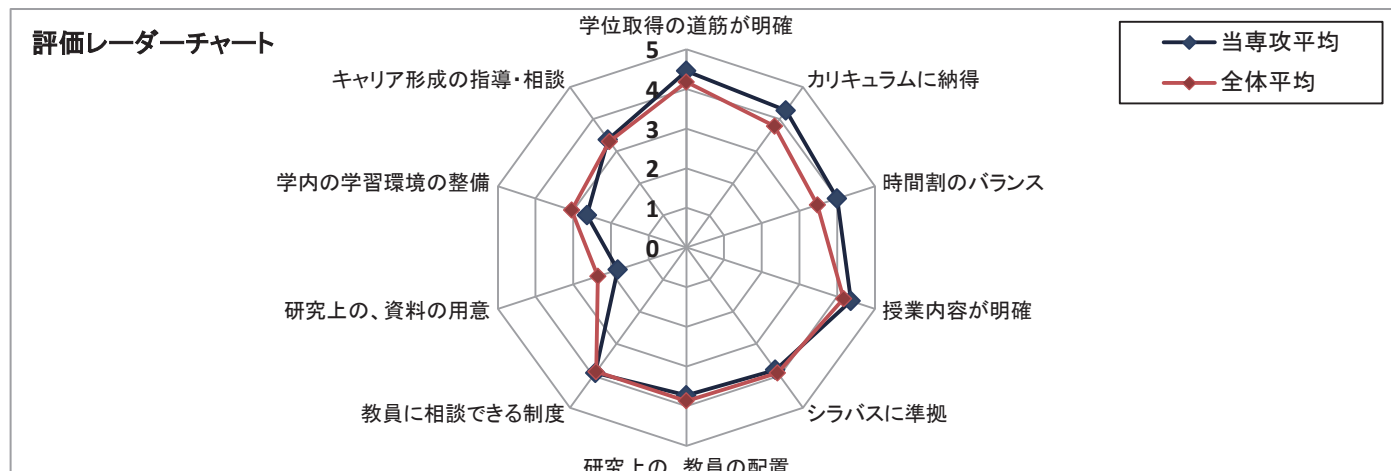
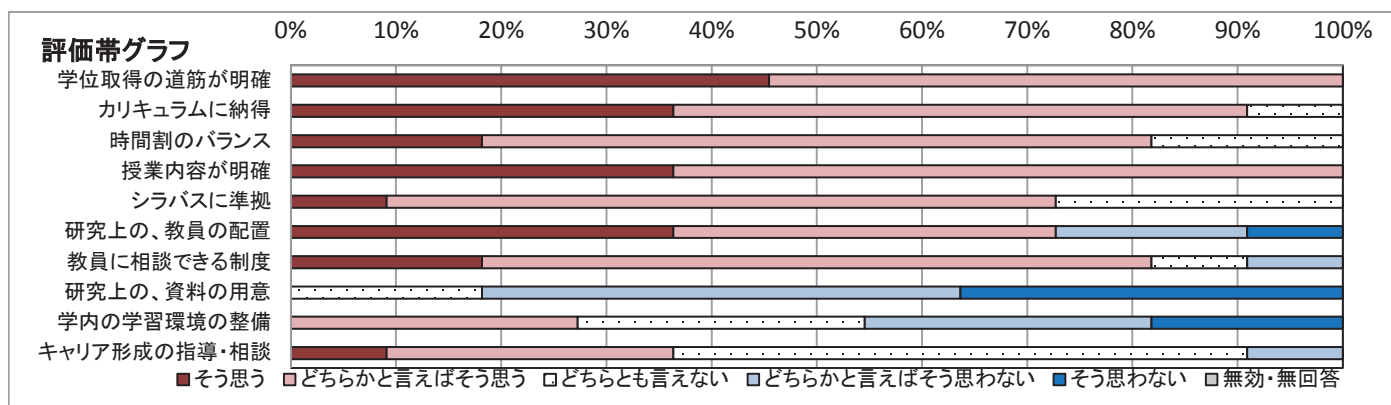
臨床心理学専攻

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計
3 27.3%	6 54.5%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.2	4.5	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.498
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	4.3	4 36.4%	6 54.5%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.617
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	4.0	2 18.2%	7 63.6%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.603
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.4	4 36.4%	7 63.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.481
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	3.9	3.8	1 9.1%	7 63.6%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.575
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	3.7	4 36.4%	4 36.4%	0 0.0%	2 18.2%	1 9.1%	11	0	1.355
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	3.9	3.9	2 18.2%	7 63.6%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	11	0	0.793
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.3	1.8	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	5 45.5%	4 36.4%	11	0	0.716
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.0	2.6	0 0.0%	3 27.3%	3 27.3%	3 27.3%	2 18.2%	11	0	1.068
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.4	1 9.1%	3 27.3%	6 54.5%	1 9.1%	0 0.0%	11	0	0.771





## 4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

### 全学（大学院）的観点から見た回答の傾向

全学（大学院）のアンケート結果集計表をもとに、全体の回答傾向を検討した。

#### ① 学位取得のための道筋が明確に示されている

全学の平均は 4.2 であった。「臨床心理学専攻」が 4.5、「人間文化専攻」が 4.3 と平均を上回っているが、「発達・学校心理学専攻」と「応用英語専攻」はどちらも 4.0 と少し低く、「生活福祉文化専攻」は 3.6 とさらに低い結果となっている。

#### ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである

全学の平均は 3.8 であった。この設問の回答は「臨床心理学専攻」の 4.3 が平均を上回っている以外は、「人間文化専攻」3.7、「発達・学校心理学専攻」3.5、「生活福祉文化専攻」3.2、「応用英語専攻」3.0 と低い値を示している。

#### ③ 授業時間割はバランスよく配置されている

全学の平均は 3.5 であったが、「臨床心理学専攻」と「応用英語専攻」はどちらも 4.0 で、平均を上回っている。しかし「人間文化専攻」は 3.3、「生活福祉文化専攻」は 3.0 で、「発達・学校心理学専攻」は、1.5 と下回っている。

#### ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている

全学の平均は 4.2 であった。「人間文化専攻」は 4.7、「応用英語専攻」は 4.5、「臨床心理学専攻」は 4.4 と平均を上回っているが、「生活福祉文化専攻」は 3.6、「発達・学校心理学専攻」は 3.5 と平均を下回っている。

#### ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている

全学の平均は 3.9 であった。「生活福祉文化専攻」は 4.2、「発達・学校心理学専攻」、「人間文化専攻」は両専攻科共 4.0 と平均を上回っている。しかし「臨床心理学専攻」は 3.8、「応用英語専攻」は 3.5 と平均を下回っている。

#### ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

全学の平均は 3.9 であった。「発達・学校心理学専攻」は 4.5、「人間文化専攻」は 4.3、「生活福祉文化専攻」は 4.0 と平均を上回っていたが、「臨床心理学専攻」は 3.7、「応用英語専攻」は 3.0 と平均より低い値を示している。

#### ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている

全学の平均は 3.9 であった。「人間文化専攻」は 4.7、「発達・学校心理学専攻」は 4.5 で平均を上回っていたが、「臨床心理学専攻」は 3.9、「生活福祉文化専攻」は 3.4、「応用英語専攻」は 3.0 と平均を下回っている。

#### ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている

全学の平均は 2.3 であった。「生活福祉文化専攻」は 3.2、そして「人間文化専攻」、「応用英語専攻」の両専攻は、共に 3.0 と平均を上回っているが、「臨床心理学専攻」は 1.8、「発達・学校心理学専攻」は 1.5 という数値が示されている。

#### ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている

全学の平均は 3.0 であった。「人間文化専攻」は 4.3、「応用英語専攻」は 4.0、「生活福祉文化専攻」は 3.2 と平均を上回っているが、「臨床心理学専攻」は 2.6、「発達・学校心理学専攻」は 2.0 と平均を下回っている。

#### ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

全学の平均は 3.3 であった。「人間文化専攻」は 3.7、「応用英語専攻」は 3.5、「臨床心理学専攻」は 3.4 と平均を上回っているが、「発達・学校心理学専攻」と「生活福祉文化専攻」の両専攻科はともに 3.0 を示し、平均を下回っている。

#### 自由記述から見られる課題

全学のアンケート結果集計表から、個々の指導が行き渡っている事や、幅広く学ぶことができたと言う意見もあった反面、次のような意見が見られた。

- ・プロジェクト課題はなかなか難しかった。医中誌が閲覧できなかったのが残念であった。(生活福祉文化専攻)
- ・修論提出前に図書館の PC が借りることができなかったのは辛かった。院生を優先する等してほしかった。(人間文化専攻)
- ・専門演習の進み方が、消化授業のようで残念だった。
- ・集中講義を 1 年の中で詰め込まないで、2 年間の中でバランスよくしてほしい。(発達・学校心理学専攻)
- ・キャリア形成への指導がなく、不安が大きい。学内実習へのスーパーバイズの内容が、バイザーによって偏りがあり、十分な指導時間を確保できていない教員がいる。
- ・修士論文を書く上で、参考にしたい論文が図書館にない時があるため、心理学に関する論文をもっと用意してほしい。
- ・修士論文提出前のスタディールームの引っ越しなど、重要なスケジュールに関しては考慮してほしい。
- ・所蔵する雑誌が少ないと感じる。
- ・オンラインでの雑誌についても読めるのが少ない。(臨床心理学専攻)

今年度の特徴として、修士論文提出前の部屋の移動について書かれていた。改修工事のため、学内全体が部屋の移動等があつて落ち着かず、それを不満に思っている大学院生も多いように見受けられた。しかし、学内の移動は来年度まで続くことはない。各専攻科別に記したが、図書館の充実、カリキュラムの見直しに関しては、全学的な取り組みとして、解決の方向に向ける必要がある。

#### 評価結果のまとめと改善のための取り組み

本年度実施された「大学院生による教育評価アンケート」の回収率は 74.2%となっており、これは昨年の 86.8%より下回っている。回収率が 100%の専攻科もあるが、55.6%と低い専攻科もある。今後は回収率をできるだけあげるよう検討する。また、問題点として、大学院生数が少ない専攻科では、回答者が特定される恐れが大学院生にあることがあげられた。回答者が特定されない方策を考える。

評価項目で平均点の低いのが「⑧研究科（専攻）、あるいは大学に、研究生活を送る上で、必要な図書、関連資料が用意されている」である。これは昨年のアンケートより数値が低くなっており、少しは改善の兆しがあるのかも知れないが、しかしまだまだ充分ではない。

次に低いのが「⑨自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」という項目である。これも⑧の項目同様、大学の施設設備への指摘で、この点においても学習環境の充実を一層進めていく必要がある。

最後の「⑩キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている」という項目については、「個々の指導が行き渡っていて、先生方に相談し易い」と言う自由記述等がある反面、全体の平均点が他の項目より低く、しかもどの専攻科も平均点に大差がない。これは、キャリア形成に関する適切な指導や相談に関する方法を、さらに充実するように考えていく必要がある。

また「③授業時間割はバランスよく配置されている」という項目では、上記 3 項目の次に低い平均点となっていて、特に専攻別で落差がみられる。平均値を下回っている専攻科は勿論であるが、全体的に見直し、大学院生の学習環境を充実させる必要がある。

「よかった点」より「改善すべき点」を項目毎に検討し、できる限り学習環境を整えるような方向に進めるべきだと考える。

文責：吉野 啓子（人間文化学部英語英文学科 FD 委員）

このアンケートは本学大学院の教育内容の改善を目的として実施します。  
 特定の授業科目についてではなく、所属する研究科（専攻）の教育内容や教育環境について評価してください。  
 成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して、率直に答えてください。

I. あなたの学年の番号を記入してください。（※科目等履修生の方は学年記入不要です。）

回答欄

1. 修士課程(M1)      2. 修士課程(M2)      3. 博士前期課程(M1)      4. 博士前期課程(M2)  
 5. 博士後期課程(D1)      6. 博士後期課程(D2)      7. 博士後期課程(D3)

II. あなたの専攻の番号を記入してください。

回答欄

- 【人間文化研究科】 1. 応用英語専攻      2. 生活福祉文化専攻      3. 人間文化専攻  
 【心理学研究科】 4. 発達・学校心理学専攻      5. 臨床心理学専攻      6. 心理学専攻      7. 科目等履修生

III. 以下の設問について、最もあてはまる回答番号を1つ選び、記入してください。

- 5 : そう思う      4 : どちらかと言えばそう思う      3 : どちらとも言えない  
 2 : どちらかと言えばそう思わない      1 : そう思わない

回答欄

教育内容や教育環境について

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている  
 ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである  
 ③ 授業時間割はバランスよく配置されている  
 ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている  
 ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている  
 ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている  
 ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている  
 ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている  
 ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている  
 ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている


IV. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください（自由記述）。


V. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください（自由記述）。



### Ⅲ 2014（平成26）年度 「FD研修会」実施報告

#### 1. 実施概要

2014（平成26）年度はFD研修会として各学部のFD委員がコーディネートする3つの研修会を実施した。それぞれの研修会の形式も講演会やグループディスカッション等様々で、専任教員は、希望する1つ以上の研修会に参加した。今年度の研修会の内容等は以下の通りである。

■ 1. テーマ：「第3のコミュニティーを創出する「ピア・ネット」」

講師：法政大学 学習ステーション長 木原 章教授

コーディネーター：人間文化学部人間文化学科 鷺見 朗子教授

日時：2014（平成26）年6月2日（月）17：00～18：30

場所：ユニゾン会館 大会議室

概要：法政大学「ピア・ネット」で行われている、学生スタッフによるピア・サポート活動の成立過程や運営の様子が紹介された。教職員の協働のもと支援される学生と支援する学生双方の成長を促し、正課外教育を充実させている様子は、非常に興味深く本学での学生サポートにとって有意義な内容であった

■ 2. テーマ：「卒業論文の指導について（part2）」

内容：教員によるグループディスカッション

コーディネーター：生活福祉文化学部 三好 明夫教授

日時：2014（平成26）年6月6日（金）17：00～18：30

場所：ユニゾン会館 社会学習センター2

概要：昨年度の「卒業論文の指導について（part1）」に引き続き part2 を開催した。

参加者は、4～5人のグループに分かれて、卒業論文の指導について話し合ったのち、グループでの議論の内容を発表した。昨年度は、問題点を提示するにとどまり、解決策について議論するまでに至らなかったことを踏まえ、問題点だけでなく解決方法についても各グループで話し合った。

■ 3. テーマ：「情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために」

内容：心理学部 神月 紀輔教授による講演「ICTを使った大学授業」、

Moodleの講習「e-Learning システムを体感しよう」、

システム管理課による情報機器の紹介「電子黒板を使ってみよう」

コーディネーター：心理学部 廣瀬 直哉教授

日時：2014（平成26）年6月12日（木） 17：00～18：30

場所：新ユーニア館1階ラーニングcommons、E209

概要：前半は、心理学部 神月紀輔教授による講演「ICTを使った大学授業」が行われた。

後半、参加者は2つのグループに分かれ、神月教授による Moodle の講習「e-Learning システムを体感しよう」または、システム管理課による情報機器の使用方法の講習「電子黒板を使ってみよう」のいずれかに分かれ参加した。

■ 出席者数：

日時	内 容		コーディネーター・ 講師	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	その他（職員など）	総出席数	
	実施形態	テーマ		英語英文学科	人間文化学科					
6月2日 (月) 17:00～ 18:30	講演	第3のコミュニティを創出する「ピア・ネット」	講師 法政大学 学習ステーション長 木原 章 教授 コーディネーター 人間文化学部 鷺見 朗子 教授	7	6	7	5	19	44	
6月6日 (金) 17:00～ 18:30	教員による 討論	卒業論文の指導について (part2)	コーディネーター 生活福祉文化学部 三好 明夫 教授	0	4	5	2	2	13	
6月12日 (木) 17:00～ 18:30	講演・ 講習	情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために	講師 心理学部 神月 紀輔 教授 システム管理課 コーディネーター 心理学部 廣瀬 直哉 教授	6	9	8	14	1	35	
参加人員（のべ数）				計	13	19	20	21	22	92
構成員数				計	15	14	17	20		

## 2. 現状と今後の課題

今年度も昨年度と同様に複数の研修会を開催し、専任教員（および職員）が希望するものに参加する形でおこなった。

第1回の「第3のコミュニティを創出する『ピア・ネット』」は、唯一外部講師による講演であった。講師の法政大学の木原教授には、最初の学生スタッフの立ち上げから、最近の活動の様子まで詳しく説明いただき、支援される学生と支援する学生の成長が生き生きと伝わってきた。事後のアンケートへの回答をみると、「大変有意義であった」と「有意義であった」を合わせると約8割あり、講演の内容が本学の教職員にとって有益であったことが裏付けられた。本講演は多くの参加があり、特に職員の参加が多かった。アンケートの感想の中でも、「FD以外にも、SDのためにもなった」という意見があった。紹介いただいた法政大学の例は、大学の規模や構成も異なるので、そのまま使えるわけではないが、本学の規模にあった形でのピア・サポートを今後進めていくヒントが得られたの

ではないだろうか。

第 2 回の「卒業論文の指導について (part2)」は、昨年度に引き続き、生活福祉文化学部の三好教授が中心となって、卒業論文の指導についてグループでディスカッションを行った。卒論指導における課題としては、スケジュールの管理、学力・スキルの不足、研究倫理 (コピペ)、意欲の問題などが挙げられ、それに対する解決策が考えられた。すべての課題に対して有効な解決策が必ずしも出されたわけではないが、事後のアンケートへの回答をみると、「大変有意義であった」と「有意義であった」との回答が 100%であり、各教員の今後の卒論指導にとって役立つ内容であったように思う。

第 3 回の「情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために」は、心理学部の神月教授の講演・Moodle 講習とシステム管理課による情報機器の紹介であった。本学に新たに導入された機器やシステムについて知ることができるということで関心が高く、多くの参加者があった。事後のアンケートへの回答でも、「大変有意義であった」と「有意義であった」との回答が 97%であり、自由回答でも「とても有意義で授業に活用できる様に練習したい」「授業に使えるそうだと思います」など、たいへん実用的な講習であった。このような本学にあるリソースを活用してくような講習は今後も継続的に行っていく必要があると思われる。

研修会の回数は、昨年度 4 回、今年度 3 回と少なくなったが、参加のべ人数は約 5 割多くなっていた。したがって、今年度の FD 研修について日程やテーマはおおむね適切であったと思われる。次年度も、教員 (および職員) の興味関心に沿ったテーマの研修会を委員会として考え、教員 (および職員) の資質向上に努めていきたい。

文責：廣瀬 直哉 (心理学部心理学科 FD 委員)



## IV 2014 年度（平成 26）年度「オープンクラス」実施報告

### 1. 実施概要

オープンクラスによる相互授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討しあうことによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなど、多くのメリットがあることから、本学では 2011（平成 23）年度よりオープンクラスを実施し、一部の専任教員の授業を教職員に対し公開してきた。

2014（平成 26）年度は、昨年度より引き続き、前後期各 2 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。オープンクラス・ウィーク期間中は、原則として全ての授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートの内容は、授業担当教員へ伝えられた。

#### 2014（平成 26）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	のべ参観者数	参観者コメントシート提出数
6 月 16 日（月）～ 6 月 28 日（土）	45	53
10 月 27 日（月）～11 月 10 日（月）	23	25

### 2. 現状と今後の課題

2014（平成 26）年度「オープンクラス」参加者の人数を見ると、前期はのべ参観者数が 45 名、参観者コメントシート提出数が 53 シート、後期はのべ参観者数が 23 名、参観者コメントシート提出数が 25 シートである。2013（平成 25）年度（前期の参観者数が 69 名、後期が 18 名）と比較すると、2014（平成 26）年度前期は減っているが、後期は増えている。この増減の理由ははっきりとはわからないが、後期に増加したのは、実施期間を変えたことが一因かもしれないと考えられる。前期は昨年度とほぼ同じ時期に実施したが、後期は昨年度 11 月下旬であったのを今年度は 10 月末から 11 月初旬に設定している。しかし、昨年度よりは前期と後期の参観者数の差が縮まっているものの、依然として後期の参観者数は前期のほぼ半数であり、なぜ後期になると半減するのかを分析する必要があるだろう。

2013（平成 25）年度から専任教員のみならず非常勤講師を含めた全ての授業を「オープンクラス」の対象としたこと、また授業の一部の時間のみでも参観可としたことで、参観がしやすくなっていると思う。またコメントシートを通じて、参観する側と参観される側の間にコミュニケーションが可能となっており、互いに学びの場が形成されているともいえる。一方、専任教員には「オープンクラス」参加を義務付けているものの参加者の数が伸びないのは、多忙などを理由に参加していない教員がいるからであろう。今後の課題として、教員のさらなる参加を促すとともに、「オープンクラス」実施が授業改善に具体的にどのように役立っているのかを検証していく必要がある。

文責：鷺見 朗子（人間文化学部人間文化学科 FD 委員）

## V 2014 (平成 26) 年度 「全学 FD 教員研修会」 実施報告

### 1. 実施概要

全学FD教員研修会は、全教員が一同に集まるFD研修会として2008（平成20）年度より実施している。今回の研修会では、講師に樋栄ひかる氏（Ena Communication Inc）を迎え、学生理解、傾聴力向上、プレゼンテーション技術向上、ファシリテーション技術の習得を目的に、グループワークを中心としたプログラムに取り組んだ。

- 日 時：2015（平成 27）年 2 月 20 日(金) 10：30 ～ 17：30
- 場 所：新ユージニア館 大講義室
- 講 師：樋栄ひかる氏（Ena Communication Inc）
- コーディネーター：FD 委員会（廣瀬委員長、吉野教授、鷺見教授、三好教授）
- 目的と目標：学生理解、傾聴力向上、プレゼンテーション技術向上、ファシリテーションスキルを学ぶ。
- 出席者数：

出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	教員現員数	教員参加率	副学長	職員
	英語英文学科	人間文化学科						
41 名	7 名	8 名	14 名	12 名	66 名	62.1%	1 名	3 名

### 2. 現状と今後の課題

2013（平成 25）年度の全学研修会は、FD・点検評価委員会の企画・実施による「授業評価アンケート」結果の分析および教員によるテーマごとのグループディスカッションを行った。2014（平成 26）年度は、新たな試みとして外部講師を招き、主にアクティブラーニングを目的とした全学研修会を実施した。2013（平成 25）年度は午前 2 時間のみのみ行ったが、2014（平成 26）年度は午前 2 時間、午後 4 時間という長丁場で行った。教員の参加率は昨年度の 77.9%から今年度は 63.6%へ低下したが、これは例年 3 月初旬の教授会の開催日に行っていたのを今年度は講師の都合もあり 2 月下旬に設定したことも影響していると考えられる。また、事前に届け出のあった欠席者には大学コンソーシアム京都の FD フォーラムに参加を義務付けたことも今年度の新しい取り組みであった。大学コンソーシアム京都の研修会に参加した教員からは、出席したシンポジウムや分科会が興味深く、多くを学んだという意見が寄せられた。

研修はアイスブレイクから開始した。参加者は誕生月別に分かれ、誕生日順に大きな輪の形に座り、生まれ月ごとにその月に生まれたいと思わせるスピーチを行った。これによって場がなごんだだけでなく、学科の垣根をこえて交流したことにより、全体で研修にのぞむ雰囲気を整ったように感じた。その後、拍手まわしと同時拍手まわしによってスピーチとプレゼンテーションの違いを考察し、傾聴の大切さを実感した。午後は 4 人ごとの異なるグループに分かれ、共通点を探してグループ名を決め、チームビルディングの実践から始まった。各人が今年の抱負となる漢字を選び、発表を行い、それら漢字を組み合わせて四字熟語を作った。また、チーム内で、相手に見たいと思う映画と相手に読ませたいと思う本について発表を行ったり、紙飛行機を作成したりして facilitation や knowledge model について学んだ。

参加者のアンケート結果は、「大変有意義であった」30.3%、「有意義であった」54.5%、「あまり有意義でなかった」6.1%、「有意義でなかった」3.0%、「無回答」6.1%であり、おおむね良い結果

であったといえる。自由記述では、肯定的なものとして「楽しかった」「実用的であった」「講師がよかった」などの意見があった。対して否定的なものとしては、「高校生・大学生向けの内容であった」や「授業＝プレゼンでいいのか」といった旨の回答が見られた。全体的に多かったのは「研修時間が長すぎる」という意見であった。確かに長すぎて集中力が途切れてしまった面があったのは否めない。

来年度の研修会の計画に向けて、外部講師を招くかどうかも含め、アンケート結果の自由記述内容を冷静に分析し、内容がよりよいものになるよう工夫していきたい。集中できるような研修スケジュールを組めるよう計画していくことも求められる。最後に、本研修会に限らないが、義務付けられているFD研修会に参加自体を拒否する教員に対する対応もFD委員会として考えていかねばならないだろう。

文責：鷺見 朗子（人間文化学部人間文化学科 FD 委員）

## FD 委員会構成員

委員長	廣瀬	直哉	(心理学部 心理学科)
委員	吉野	啓子	(人間文化学部 英語英文学科)
委員	鷺見	朗子	(人間文化学部 人間文化学科)
委員	三好	明夫	(生活福祉文化学部 生活福祉文化学科)
事務局	研究・情報推進課		

京都ノートルダム女子大学  
2014 (平成 26) 年度 FD 報告書

---

2015 (平成 27) 年 5 月 30 日発行

編 集	京都ノートルダム女子大学 FD 委員会 (事務局: 研究・情報推進課)
発 行	京都ノートルダム女子大学 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地 TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707 ホームページ <a href="http://www.notredame.ac.jp">http://www.notredame.ac.jp</a>

授業評価アンケート  
教育評価アンケート 株式会社 教育ソフトウェア  
集計結果表作成

印 刷 株式会社 田中プリント

---